



# 東京歯科大学広報

## 東京歯科大学大学葬 石川達也 元学長 ご逝去



遺影の中で、静かに微笑む石川元学長・名誉教授：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

平成26年7月2日（水）午前11時40分、本学元学長・石川達也名誉教授がご逝去された。享年85歳であった。

8月31日（日）午後2時より、東京歯科大学水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、本学教職員、同窓会、各歯科大学、行政ほか歯科界の関係者等、先生を偲ぶ参列者が会場を埋めるなか、しめやかに大学葬が執り行われた。



大学葬会場：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館エントランス

2014年7・8・9月

# 268号

### 本号の主な内容

・東京歯科大学大学葬 石川達也 元学長 ご逝去	1
・柳澤孝彰名誉教授ご逝去	18
・平成26年度Elective Study報告	21
・第46回全日本歯科学生総合体育大会夏期大会開催	25

葬儀委員長の水野嘉夫理事長の開式の辞の後、静かに黙とうが捧げられた。

水野理事長の追悼の辞に続き、日本歯科医学会 住友雅人会長、友人代表として町田幸雄名誉教授、保存学一門を代表して高橋一祐名誉教授はじめ、多くの列席者が壇上の遺影の前で、石川先生の業績を称え、若き日の先生との思い出や教えを語り、心のこもった弔辞が捧げられた。

遺族を代表して石川先生のご長男 石川博基先生より謝辞が述べられ、代表者による指名献花に続き、700人を超す弔問の参列者による献花が行われた。参列したひとりひとりが、穏やかにほほえむ先生の遺影に最後のお別れをし、午後4時、式は静かに幕を閉じた。



追悼の辞を述べる水野葬儀委員長：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



弔辞を述べられる住友日本歯科医学会会長：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



弔辞を述べられる町田名誉教授：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



弔辞を述べられる高橋名誉教授：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



学生代表による献花：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



喪主 石川博基先生のご挨拶：平成26年8月31日（日）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

## 故石川達也元学長・名誉教授略歴

昭和3年7月21日、三重県に生まれる

平成 5年 9月 東京歯科大学財務委員会委員長

平成 7年 6月 東京歯科大学学会会長

## 学歴

昭和26年 3月 神戸経済大学(現神戸大学経済学部)  
卒業

昭和26年 4月 東京歯科大学専門課程編入

昭和30年 3月 東京歯科大学専門課程卒業

昭和35年10月 医学博士の学位受領(神戸医科大学)

## 資格・免許等

昭和30年11月 歯科医籍登録第44947号

## 職歴及び研究歴

昭和31年 4月 東京歯科大学歯科保存学助手

昭和34年 4月 東京歯科大学歯科保存学講師

昭和35年 4月 東京歯科大学歯科衛生士学校講師

昭和36年 4月 東京歯科大学歯科衛生士学校主事

昭和38年 4月 東京歯科大学歯科保存学助教授

昭和40年 4月 東京歯科大学歯科保存学第三講座  
主任教授

昭和46年 6月 東京歯科大学歯科衛生士学校校長

昭和46年 7月 学校法人東京歯科大学評議員

昭和61年 6月 東京歯科大学千葉病院長

昭和61年 6月 学校法人東京歯科大学理事

平成 2年 6月 学校法人東京歯科大学常務理事

平成 4年 6月 東京歯科大学副学長

平成 7年 6月 東京歯科大学学長

平成16年 6月 東京歯科大学名誉教授

## 学内における経歴等

昭和36年 4月 東京歯科大学保存科・小児歯科  
診療室主任

昭和36年 4月 東京歯科大学歯科衛生士学校主事

昭和38年 6月 東京歯科大学学会評議員

昭和41年11月 血脇守之助傳編集調査会委員

昭和42年 4月 東京歯科大学歯科衛生士学校教務  
主任

昭和43年10月 東京歯科大学学会理事

昭和44年 5月 東京歯科大学広報部長

昭和45年 4月 東京歯科大学歯科衛生士学校副校長

昭和45年11月 血脇守之助傳編集委員会委員

昭和46年 6月 東京歯科大学歯科衛生士学校校長

昭和49年 6月 東京歯科大学史料室主任

昭和52年11月 東京歯科大学保存科部長

昭和58年 6月 東京歯科大学学生部長

昭和63年12月 東京歯科大学100周年記念誌編集  
委員会委員長

## その他の主な活動

昭和38年 5月 日本小児歯科学会(発起人・幹事)

昭和38年 7月 日本保存歯科学会評議員

昭和40年 4月 日本歯科保存学会理事

昭和40年 4月 日本歯科保存学会専務理事

昭和40年12月 全国歯科衛生士教育協議会理事

昭和40年12月 歯科衛生士試験委員(東京都)

昭和44年12月 歯科医師国家試験委員(厚生省)

昭和49年 4月 日本歯科保存学会会長

昭和50年 5月 第14回日本歯科医学会総会事務局長

昭和55年 4月 日本歯科医学会会報編集委員会委員長

昭和55年 8月 FDI常置委員会参与

昭和56年 4月 日本歯科医学会雑誌編集委員長

昭和57年 4月 日本歯科医学会理事

昭和57年 4月 「母と子の良い歯のコンクール」  
中央審査委員

昭和57年 5月 ライオン歯科衛生研究所理事

昭和60年 4月 日本歯科医師会疑義解釈委員会委員長

昭和61年10月 老年歯科医学総合研究所理事

平成 元年 2月 学術審議会専門委員(科学研究費  
分科会)(文部省)平成 3年 8月 大学設置・学校法人審議会専門委員  
(文部省)

平成 3年11月 中央薬事審議会臨時委員(厚生省)

平成 5年 9月 日本コンピュータ歯科医学会会長

平成 5年11月 中央薬事審議会委員(厚生大臣)

平成 5年12月 日本全身咬合学会会長

平成 7年 6月 日本私立歯科大学協会理事

平成 7年10月 「今後の歯科医療の在り方に関する  
検討会」委員長(厚生省)

平成 8年 4月 日本私立歯科大学協会副会長

平成 8年 6月 第19回日本歯科医学会総会・  
第22回アジア太平洋歯科大学会頭

平成12年 5月 ICD日本部会長

平成14年 7月 日本私立大学連盟監事

平成16年 4月 東北大学大学院歯学研究科・  
歯学部運営協議会委員

## 受賞

平成 6年12月 日本歯科医学会会長賞

平成 8年 5月 日本歯科保存学会賞

## 叙位 叙勲

平成26年 7月 従四位瑞宝中綬章

## 追悼の辞

東京歯科大学名誉教授・元学長石川達也先生の御遺影を前に、学校法人東京歯科大学を代表して哀悼の誠を捧げ、謹んでお別れのご挨拶を述べさせていただきます。

先生は、平成26年7月2日、肺炎のため、本市市川総合病院で、85年の生涯を閉じられました。

先生は昭和3年7月21日三重県でお生まれになり、昭和26年に、神戸大学経済学部の前身であります神戸経済大学をご卒業されました。御尊父の知己でもあった、本学元学長の杉山不二先生、関根永滋先生から歯科医師になることへの強い勧めの言葉を受けた事が転機となり、東京歯科大学専門課程に編入され、昭和30年に卒業されました。

卒業後は歯科保存学を専攻され、昭和40年、37歳の若さで、歯科保存学第三講座主任教授となられ、歯科衛生士専門学校校長、千葉病院病院長、副学長を歴任されました。平成7年には、故井上 裕理事長のもと第9代学長に就任され3期9年に亘り、学長の重責を果たされました。

学長就任早々の平成8年には、新規の学際的研究プロジェクトが、私立大学学術研究高度化推進事業の「私立大学ハイテク・リサーチ・センター・HRC整備事業・最先端研究プロジェクト」に、歯科大学として唯一、採択されました。「東京歯科大学口腔科学研究センター」を千葉キャンパスに設立され、若手研究者に多くの研究の機会を与え、研究をめざましく推進されました。その後も口腔科学研究センターの充実と強化に取り組みられ、脳磁図計による脳科学研究施設を開設されました。口腔科学研究センターを中心に、それまでの講座ごとの縦割りの研究から、講座の垣根を越えて、共同研究を行うという、現在の本学の研究体制の基礎を築かれました。

他方、先生について忘れてはならないことは、13年の長きに亘る資料集めをされ、本学建学者であります血脇守之助先生について書かれた「血脇守之助伝（松宮誠一編）」の編纂であります。先生は49年の長きに亘り、豊富な経験と経済学を基盤とした優れた識見をもってその力量を遺憾なく発揮され、本学の教育・研究・臨床の、改革・改善に並々ならぬ情熱を傾けてこられました。そのご活躍は、本学、歯科界に留まらず多方面にわたり、公的な委員、役員などを歴任されました。

このような業績が認められ、平成17年春には、「瑞宝中綬章」を授けられるとともに、この度、従四位に叙されました。

今は唯、先生の天涯における日々がいつまでも安らかであることを念じております。願わくば、天上より、先生のご薫陶を受けた多くの後輩たちの活躍、先生が愛し続けた東京歯科大学の今後の発展を常にお見守り頂きたいと存じます。

ここに先生のご遺徳を偲びつつ、心からの尊敬と感謝をささげ、謹んでご冥福をお祈り申し上げ、追悼の辞といたします。

葬儀委員長

学校法人東京歯科大学

理事長 水野嘉夫

## 弔 辞

本日ここに、東京歯科大学元学長、名誉教授 故石川達也先生の大学葬がしめやかに執行されるに際し、日本歯科医学会を代表し、謹んで哀悼の辞をささげます。

私にとって先生のご活躍がもっとも印象的でありましたのが、西暦2000年5月に開催された第19回日本歯科医学会総会と同時開催された第22回アジア太平洋歯科大会でした。この時の会頭が石川先生でした。皇太子殿下、皇太子妃殿下がご台臨されました開会式の式辞において、語られた一部分をご紹介します。「これまでの歯科医学・歯科医療における診断・治療・予防はややもすると口腔局所の詳細な分析に力点が置かれ、口腔機能と全身機能の関わりや口腔機能の中枢制御などには十分な研究がなされたとはいえないようです。摂食・咀嚼・嚥下・発音などに代表される口腔機能は、ただ単に口腔局所への影響にとどまらず、こころとからだの健康状態にも深く関わっていることを示唆する傍証が次々に提示されています。21世紀の歯科医学は科学と環境の調和を保ちつつ、人々の健康の創造に積極的にかかわっていくことになると予測されます。これからの歯科医学が健康の創造にどのように貢献できるのか、新しい歯科医学、歯科医療の方向性について参加者のかたがたと共に考えてみたいと思います。」と14年後の今日、歯科に求められ取り組んでいるそのものをお話しされました。

この2つの大会を併設することで日本国内のみならずアジア太平洋諸国などからの多くの参加者を募るために、先生は平成10年(1998)10月7日から14日にかけてスペインのバルセロナで開催された第86回FDI大会のアジア太平洋地域機構代表者会議と同機構の理事会に精力的に出席されました。そして翌年、平成11年(1999)10月25日から11月2日にはメキシコシティで開催された第87回FDI大会でもPR活動とアジア太平洋地域機構との打ち合わせを行っています。この時の石川先生のお姿は、下野正基先生そして山田了先生のお供を得て、まさに水戸黄門のような風格がございました。

私は日本歯科医師会の国際渉外委員会委員の一人として、それらのFDI大会に参加し、ご活躍ぶりを目の当たりにいたしました。今もその光景をはっきりと思い出すことができます。これらの誘致活動の成果は大会実質参加総数18,000名余、海外からは41か国649名の参加というすばらしいものでありました。

ここでは日本歯科医学会にかかわるひとつのエピソードしかご紹介できませんでしたが、先生がなされた輝かしい業績の数々は、とこしえに歯科界の指針としてわれわれの中に長く残ることでしょう。この金字塔ともいべき功績を、末永く継承し、われわれの努力をもって次なる希望へ跳躍するつもりです。

ここに在りし日の石川達也先生を偲び、その御霊の安らかなご冥福を祈りつつ、深い哀惜の思いを込めてお別れの言葉といたします。

日本歯科医学会  
会長 住友雅人

## 弔 辞

本日は友人として敢えて石川君と呼ばせていただきます。

石川君は神戸経済大学を卒業され、東京の三越に就職しようとして上京された時、お父上と同期生の故関根永滋学長のところに挨拶に行くよう言われ訪問したところ、あらかじめお父上と関根教授との示し合わせで、貴君は東京歯科大学に入学するよう説得されたと聞いております。

説得に応じ、東京歯科大学に入学されたことは貴君にとって正解であったと私は思っています。貴君は、神戸経済大学を卒業されていたことから、当時、我々は予科3年を終了後、学部に進学しましたが、貴君は直接学部に入編してこられたので、学部在学中は、貴君と私はお付き合いすることはありませんでした。お付き合いするようになったのは卒業後2人ともに保存科の研究生として在籍するようになってからのことです。

私は卒業後すぐに自動車の運転免許証を取得しましたが、これを知った貴君は新前の私に自動車で遊びに行こうと誘い、青梅方面に出かけ、貴君は楽しかったようでしたが、私は帰ってくるまで冷汗ものであったことを今でも鮮明に記憶しています。

貴君は昭和40年4月に歯科保存学講座の主任教授に就任されましたが、その時、関根永滋教授は貴君と同期生である私に、来年はお前も新設される小児歯科学講座の主任教授にするからと、教授会の承認も得られていないのに、私に退職しないよう言われました。そして更に、お前は石川より2歳も年が若いので教授在籍期間は1年長くなるとも言われました。

しかし実際には貴君の在籍期間は、学長になられたため私より長くなりました。これは貴君と私の実力の差で当然のことと思っています。貴君は学長に就任後、上顎癌の手術を受けましたが、それにもめげず学長職を立派に務められ数々の業績を挙げられ感服しております。

貴君を失ったことは歯科界にとって大きな損失ではありますが、ご苦労様でした。これからはやすらかに休みください。

友人代表

東京歯科大学 名誉教授 町田 幸雄

## 弔 辞

先生、誠に残念の極みです。

こうしてお写真を前にすると先生が、関根永滋先生に心から盡され、ご苦勞された昔のことが思い出されます。

学生の時、卒業論文の面倒を見ていただき、先生に保存に残るのでしょうと言われ、家が歯科とは関係ないこともあって、何となく保存に残ることになり、以来ご指導を頂くことになりました。昭和32年当時の保存科は口腔治療と保存の2つがあり、保存は充填と言われていました。昭和40年主任教授になられた先生は、これからはもっと幅広く新しい考えで研究、学問を展開しなければいけないと言われ、保存修復学という名称を創られ、学会もこれに賛同して、以来これが定着することになります。

そしてこれを機に教科書を作る企画がなされ、「保存修復のテクニック」が出版されました。私も少しお手伝いを致しました。これが高い評価を得て、その後多くの先生方が参加を希望することになります。この豊かな発想と行動力が、偉大なご活躍の第一歩になったのではないかと思っております。

その後大学が千葉へ移転することになり、私は水道橋に残りこれを守るように命ぜられました。財政上の問題や人的な問題を抱え困っておりました。しかし先生の適切なお指示を頂き、任を全うすることが出来たのは、偏に先生のご指導の賜物と深く感謝しております。

千葉へ移ってからの研究は、既成概念にとらわれない先生の豊かな発想の下、幅広くレベルの高い展開となりました。先生がご指導された学位論文は、優に百篇を超えています。学長としても活躍され、御指導によりすぐれた人材が育ち、学会、歯科医師会を始め多岐に渡る分野で海外でも活躍しております。ここに一門を代表して心から感謝申し上げます。

仕事を離れたプライベートな時間は、リラックスしてワインにシャンソン、時には先生の松阪のご実家が歯科の御殿医的存在だったお話など、先生の人柄に触れ楽しい時をすごしました。

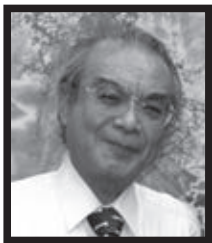
先生の偉大なご功績は、これからも語り継がれるものと思います。

ここに謹んで安らかなご冥福をお祈り申し上げ、お別れの詞と致します。

一門代表

東京歯科大学 名誉教授 高橋 一 祐

## 訃報 柳澤孝彰名誉教授ご逝去



柳澤孝彰名誉教授は平成26年8月28日(木)に虚血性心疾患のためご逝去されました。享年68歳でした。

柳澤先生は昭和21年6月千葉県にお生まれになり、昭和46年3月に本学をご卒業され、同4月に本学大学院研究科に入学、同50年3月に修了し、歯学博士の学位を受領されました。大学院修了後直ちに助手(病理学第一講座)として採用され、講師、助教授を経て、平成3年に教授(病理学)に昇任し、同5年に新設された口腔超微構造学講座(現組織・発生学講座)の主任教授に就任されました。以後、学術出版部長、国際渉外部長、教養科目協議会幹事、大学院研究科長を歴任し、平成22年に副学長に就任されました。学部での教育・研究にご尽力された一方で、平成17年に法人評議員、同23年には法人理事に就任し、学校法人の運営にもお力を注がれました。平成25年5月に副学長の任期満了をもってご退職となり、同6月に名誉教授になられました。

柳澤先生は齲蝕に関する多くの知見を電子顕微鏡により結晶レベルで解析し、研究成果は教科書に美しい電子顕微鏡写真と共に記載されたほか、国内のみならず、海外の歯学部でも齲蝕病理学の講義に招聘されるなど齲蝕病理学の世界的権威として活躍されました。研究成果の一部はキシリトールガムの開発に繋がりました。このガムのコマーシャルで使用された「再石灰化」という言葉が歯科関係者以外の一般の方々にも理解されるようになったことも先生の業績の一つとして挙げられます。

先生の後任として主任教授となりました私にかけてくださいました「引き継ぐようなものは何もないから、自由にやりなさい」という言葉は、既成のものにとらわれずに、自由な発想で講座運営を行いなさいという励ましの言葉と理解しております。

あまりに早いご逝去が残念でなりません。ご冥福を心からお祈りいたします。合掌。

(組織・発生学講座教授 山本 仁)



## ■准教授就任のご挨拶



### 解剖学講座

松 永 智

この度、平成26年7月1日付で本学解剖学講座准教授を拝命いたしました。平成15年に大学院歯学研究科で解剖学を専攻して以来、ご支援、ご協力いただきました大学関係者、解剖学講座OBの諸先生方にまずは心より御礼申し上げます。

解剖学講座は、故上條雍彦教授をはじめ、井出吉信学長、阿部伸一教授と代を重ねながら、常に「臨床解剖」を合言葉として教育・研究の両面に力を尽くしてまいりました。この伝統ある講座の准教授に就任することは、大変光栄であるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

解剖学は歯科医学の登竜門であり、歯科医師に不可欠な専門用語を学ぶとともに、生体の構造を三次元的に理解し頭の中で組み立てる訓練をする学問です。学生が興味を持つことができる様々な実例をまじえて、形態から機能を、位置関係から役割を連想できる講義を実践していくつもりで

す。さらに、臨床実習を通じて解剖学的知識の重要性を再認識した学生に、改めて解剖学と臨床科目がコラボレートした実習講義を行うことができると考えております。

研究面においては、大学院生として三次元有限要素法を用いたシミュレーション研究に取り組んで以来、「材料工学的手法を用いた顎骨周囲における力学的環境の解明」というテーマを立ち上げ、バイオメカニクス研究に邁進してまいりました。大阪大学工学部、慶應義塾大学理工学部と歯工連携研究を進めており、CTデータベースの骨構造解析、三次元有限要素法を用いた生体力学的解析、顎骨の生体アパタイト結晶配向性と骨強度解析などを積極的に行っております。骨質を定量的に評価する指標の確立とともに顎骨における荷重伝達経路の可視化実現のために努力する所存です。

加えて、3Dプリンタなどの造形ツールを歯科医療に応用する日本初の医療系ファブラボ「ファブラボTDC」を構築すべく、基礎的研究を進めております。世界中で医療と最新工学が融合した新しい潮流が生まれている今、重点的に推し進めていく必要性をひしひしと感じております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 平成26年度Elective Study

### ■Elective Study 表彰式

平成26年7月10日(木)、28日(月)に、Elective Study プログラムに選出された学部学生に対し、各学年の教室で表彰式が行われた。対象は、各学年の成績上位者35名の中の応募者から選考委員会により選考された学部学生18名である。7月10日(木)はさいかち坂校舎において第1、2学年の9名、新館において第3、4学年の5名、7月28日(月)は本館において第5学年の3名、新館において第6学年の1名が表彰を受けた。

当日は同窓会会長の矢崎秀昭先生にお越しいただき、井出吉信学長と共に選出者一人ひとりに表彰状を手渡され、激励のお言葉を頂戴した。Elective Studyは、本学の学生が海外の大学施設等で

研修を行うことにより、広い視野を持ちながら勉学にいそしみ、将来の歯科界および東京歯科大学を担うことができる人材を養成することを目的とした海外留学制度である。

本年度は第1学年から第3学年は姉妹校である台北医学大学口腔医学院、第4学年から第6学年は同じく姉妹校であるタフツ大学を中心にElective Studyが行われた。

学生たちがElective Studyで国際人として広い視野を持ちながら学び、実り多い時間を過ごし将来の歯科界を担ってくれる人材になってくれることが期待される。

○Elective Study参加学生 18名

第1学年

伊東 紘世 隠岐安利紗  
小坂 悠樹 黒松 真子

第2学年

浅野 一磨 安藤雄太郎  
桑原 正浩 小林 裕  
立澤孝太郎

第3学年

相磯 友里 田中 優衣  
細谷 正利

第4学年

上原 千和 小池 将人

第5学年

佐竹 奎亮 中野 僚子  
朴 世津

第6学年

明石 良彦



左から矢崎同窓会会長、黒松さん、小坂君、伊東君、隠岐さん、井出学長：平成26年7月10日（木）、さいかち坂校舎第2講義室



左から井出学長、浅野君、桑原君、小林君、安藤君、立澤君、矢崎同窓会会長：平成26年7月10日（木）、さいかち坂校舎第1講義室



左から井出学長、相磯さん、田中さん、細谷君、矢崎同窓会会長：平成26年7月10日（木）、水道橋校舎新館第1講義室



左から井出学長、上原さん、小池君、矢崎同窓会会長：平成26年7月10日（木）、水道橋校舎新館第2講義室



左から井出学長、佐竹君、中野さん、朴君、矢崎同窓会会長：平成26年7月28日（月）、水道橋校舎本館第1講義室



左から井出学長、明石君、矢崎同窓会会長：平成26年7月28日（月）、水道橋校舎新館第3講義室

**■平成26年度Elective Study報告****1. 台北医学大学を中心とした台湾への  
Elective Study**

引率：山下秀一郎(口腔健康臨床科学講座教授)

山本 仁(組織・発生学講座教授)

第1学年から第3学年のElective Studyは平成26年7月20日(日)から25日(金)の日程で、これまでの台北医学大学、台北医学大学附属病院、台北医学大学・署立雙和病院、奇美病院に加えて、柳奇奇美病院で行われた。参加者は前年度の学業成績が上位35名の中の希望者から「平成26年度Elective Study選考委員会」で選考された学生12名(第1学年4名、第2学年5名、第3学年3名)と引率2名を加えた14名である。参加学生は出発前に数回ミーティングを行い、団長として第3学年の細谷正利君、副団長として第2学年の桑原正浩君、小林 裕君を選出した。なお副団長の桑原君は昨年に続き2回目の参加である。昨年までと同様に学生たちは台湾の文化、歴史、風習、日本との関係等を事前に調べるとともに、Elective StudyのGIOやSBOsを設定し、各自がElective Studyの目的を明らかにした。また本年度の試みとして台湾の各病院での見学をより有意義なものにするために引率の山下秀一郎教授の診療を短時間ではあるが見学し、山下教授から歯科診療の概要や水道橋病院の診療システムなどの説明を受けた(第3学年では一部の臨床系の講義・実習が始まっているが、第2学年や第1学年では臨床系の講義・実習は行われていないため)。更に本年度は学生交流の時間を多く作るため、昨年よりも一日長い日程とした。

羽田空港に時間通り集合したメンバーは一抹の不安と大きな期待を胸に台北松山空港に向かった。空港には毎年大変お世話になっている張維仁先生および台北医学大学の学生6名が出迎えてくれた。チャーターしたバスで昼食会場に向かったが、バスに乗車すると最初はぎこちなかった学生達も時間の経過とともに自己紹介を始め、学生交流が始まった。昼食後、龍山寺と中正記念堂を観光しホテルにチェックインした。チェックイン後夕食会まで短い時間しかなかったが、学生たちは長旅の疲れも見せずホテル近くを散策し、バスからはわからない台北の様子を味わっていた。台

北医学大学主催の夕食会には張先生、本学と関係の深い蔡恒恵先生、小児歯科学の鄧乃嘉先生が同席された。お料理を楽しみながら学生と教員が語り合い、学生たちは両国の歯科を取り巻く環境について興味深く聞くとともに、疑問点を先生に質問し、まだ歯科臨床の実感が無い中で懸命に理解しようとしている姿が印象的だった。宴の最後には林哲堂先生が本学出身の御息子、林士凱君とおいでになった。これまでのElective Studyで培った両校の信頼関係を強く感じることができる良い時間を過ごすことができた。翌日は台北医学大学で鄭信忠歯学部長が出席して歓迎セレモニーが開かれた。学生達は改めて自己紹介し、記念品の交換を行った。セレモニー後大学内を見学し、臨床実習室や基礎実習室の様子に本学との相違を体感したようだった。附属病院に移動し、病院の説明を受けてから病院内の見学をした。事前の山下教授からの歯科診療の説明が役立ち、まだ学んでいない歯科臨床や診療の流れについても理解できたように思えた。午後から国立故宮博物館、忠烈祠を見学し、夜は士林夜市を楽しんだ。

3日目はホテルで台北医学大学の学生と集合し、バスで台北医学大学・署立雙和病院へ向かった。病院見学では診療室の他にヘリポートの見学をした。雙和病院の障害者歯科診療室の創設には本学も深くかかわっており、その診療室を見学できることは学生達にとっても有意義であったと思う。午後は行天宮を見学したのち、ホテルに戻り両校の学生達の自由時間とした。学生達は台北101などを案内してもらったようで、夜の集合時間には十分楽しんだ様子でホテルに戻ってきた。4日日も午後2時の集合時間まで学生同士で交流する時間にしたが、台風11号が台湾を直撃し大雨に見舞われたため、両校の学生たちはホテル近くで過



行ってきます！：平成26年7月20日(日)、羽田空港

ごした。遠くに時間をかけて出かけるよりもお互いに話し合う時間が多く持てたようで、学生交流の面では天候不良も良い方に作用したようだった。台風の影響で新幹線の運行が危ぶまれたが、予定通りの新幹線に乗り、台南に向かった。台北駅では両校の学生たちは大変名残惜しい様子で、あちこちで記念撮影をする姿が見受けられた。そればかりか、張先生と台北医学大学の学生たちが1駅新幹線と一緒に乗車してくれて、これまでになような学生交流となった。台南駅で本年3月まで本学に留学していた奇美病院の林哲毅先生の出迎えを受けた。台南駅からホテルまでのバスで台北とは異なる台南の風景を楽しんだ。夕食後、各自ホテル近くを散策した。

翌日、奇美病院について林先生から説明を受け、その後病院内を見学、手術室で口腔外科の手術を見学した。学生は手術着に着替え、緊張の面持ちで手術室に入った。口腔癌の手術の一部（2時間くらい）を見学したが、片時も動かずじっと手術を見学する学生、初めての手術見学に躊躇する学生など、学生の対応は様々だった。手術見学後、柳営奇美病院に移動し、病院見学を行った。



台北医学大学歓迎会後の記念写真：平成26年7月21日（月）、台北医学大学



雙和病院ヘリポートで恒例の万歳！：平成26年7月22日（火）、台北医学大学・署立雙和病院

柳営奇美病院は台南の奇美病院とはバスで1時間以上離れており、田園風景の中に建つ病院で台南の奇美病院とは異なる雰囲気があった。夜の食事会で学生たちは奇美病院の先生方と台北医学大学の学生交流とはまた違う交流を楽しんだ。6日目の早朝、ホテルから高雄空港に向かい帰路についた。

Elective Studyは学生交流と病院見学を2つの柱としている。台北医学大学を訪れるのは4回目であり、過去3年間で培った両校の信頼関係が益々強固なものとなっている印象を受け、大変心強く感じられた。また今回参加した学生達も、これまでElective Studyに参加した学生達と同様に今後も台北医学大学の学生達との交流を継続してほしいと思う。もう一つの柱である病院見学では、出発前に学生に臨床見学をさせ、歯科診療の概要や水道橋病院の診療システムの説明を行ったことが役に立ったようで、臨床科目をほとんど学んでいない第3学年以下の学生にとって詳しい治療内容はわからないまでも、見学した症例や設備、施設がどのように使われるのかという大まか



張先生からマネキン実習の説明を受けています：平成26年7月21日（月）、台北医学大学



台北駅でChoo Choo Train：平成26年7月23日（水）、台北駅

な理解はこれまでより進んでいたように感じられた。

Elective Studyでお世話になった先生方、事務の方々、関係各位に心から感謝、御礼申し上げます。



緊張の手術見学：平成26年7月24日（木）、奇美病院

## 2. タフツ大学を中心としたアメリカへのElective Study

引率：阿部 伸一（解剖学講座教授）

ボストンのタフツ大学において、第4～6学年のElective Studyが、8月24日（日）から27日（水）の日程で開催された。教務部主催で国際交流部がコーディネートをした第4～6学年のElective Studyの目的は、アメリカの大学での施設見学、とくに日本の歯科医学教育、歯科医療などとの違いを学ぶために行うもので、本学では4年目の試みであった。参加メンバーに関しては、各学年前年度の成績が上位35名に参加応募資格が与えられ、応募者の中から6名が選抜された。

研修先のタフツ大学は本学の姉妹校で、研修内容に関し時間をかけ十分に打ち合わせを行うことができた。初日（8月24日）は、Thomas学部長主催の歓迎式を開催していただき、研修に関係する



成田空港に元気に集合し、出発を待つ参加学生：平成26年8月23日（土）、成田空港

先生方とコミュニケーションをとることができた。

研修先としてはタフツ大学付属の歯科病院を設定していただいた。まず始めにMehta副学部長から病院見学の注意点などの説明を受け、病院見学がスタートした。特に学生達は、自分と同じ学年の学生達が、指導医の指導を受けながら直接診療していることに驚いていた。その診療内容もレベルが高く、診療の空いた時間には、次の患者の診療へ向けたシミュレーショントレーニングを真剣に行っているという病院実習に対する意識の違いに衝撃を受けたようであった。

研修中見学の合間に、「タフツ大学およびアメリカの他大学における歯科医学教育、卒業後教育制度、専門医獲得のためのコースとその条件」などについての講義をしていただいた。タフツ大学では、海外からのアメリカで専門医という資格を獲得したい歯科医師の受け入れ態勢も整っており、学生達は特に興味を示していた。

最後に、タフツ大学より研修の修了証をMehta副学部長から受け取り研修が終了した。

タフツ大学には、本学ご卒業の山本里見先生が歯周病科の教員として在籍されており、学生達へ様々な説明をしていただいた。また、プライベートクリニックも案内していただき、学生達、特に女子学生は海外で活躍する本学出身の女性歯科医の姿に憧れの気持ちを持って色々な話に聞き入っていた。

またボストン大学歯科補綴科には、本学出身の山本英夫先生と宮本（尾上）真弓先生が指導医として勤務されている。今回の滞在中、学生達に会いに来ていただき、本学をご卒業後、アメリカに来た経緯など多くの事を学生達に話していただい



Thomas学部長と歓談する学生（歓迎式典において）：平成26年8月24日（日）、タフツ大学

た。学生達にとって、憧れの先輩方に接することができ、感銘している様子であった。

研修最終日には、山本英夫先生(ボストン大学)のご紹介で、ハーバード大学の見学をさせていただいた。学生達は、その合理的な教育システム、そのシステムに取り組む学生の姿勢などの説明を受け、刺激を受けていた。



次の診療へ向け、学生はシミュレーショントレーニングを欠かさない(休日でもトレーニング可能)：平成26年8月25日(月)、タフツ大学



Mehta 副学部長(中央)から修了証を授与された学生達：平成26年8月26日(火)、タフツ大学

連日レクチャー、見学などを通してアメリカにおける歯科医学教育、そして臨床の実際に接することが出来た。この場を借りて今回の研修に関係していただいたタフツ大学およびハーバード大学の先生方、また本学出身の山本先生ご夫妻、宮本(尾上)眞弓先生に感謝の意を表したい。



山本先生ご夫妻のプライベートクリニックにて：平成26年8月27日(水)、ボストン



メインキャンパスでアイビー・リーグの風を満喫する学生達：平成26年8月27日(水)、ハーバード大学

## 第46回全日本歯科学学生総合体育大会夏期大会開催

第46回全日本歯科学学生総合体育大会夏期大会は、日本歯科大学新潟生命歯学部が事務主管となり、平成26年8月1日(金)から8月12日(火)まで、全国各地で熱戦が繰り広げられ、本学からは、20部門328名の部員が大会に参加した。

部門では、水泳部門が優勝の栄冠に輝き、サッカー部門・バレーボール部門が準優勝となった。得点は、77.00で、総合第7位となった。

### ○入賞部門 順位

水泳部	総合優勝 男子団体優勝 女子団体3位
サッカー部	総合準優勝
バレーボール部	総合準優勝 女子団体優勝
硬式野球部	総合第5位
弓道部	総合第5位 女子団体4位
フットサル部	総合第5位
硬式庭球部	総合第6位 男子団体5位
少林寺拳法部	総合第6位
陸上競技部	総合第6位
ゴルフ部	総合第7位 女子団体優勝
卓球部	総合第7位 男子団体準優勝
スキー部	総合第9位
剣道部	女子団体準優勝

### ■2014年デンタル優勝

水泳部主将 津谷尚樹(3年)

第46回全日本歯科学学生総合体育大会水泳部門が8月9、10日に鹿児島県の鴨池公園水泳プールにて行われました。9日には台風が鹿児島に上陸するのでは?という、生憎の天候で心配されましたが無事に開催されました。

水泳部は総合優勝することができました。昨年の大会で3連覇を逃しましたが、日々の厳しい練習を乗り切ったので、このような結果に結びついてきたのだと思っています。元主将の気合も昨年

以上に大きいもので、我々後輩にも伝わり、優勝しかない!という思いでいっぱいでした。部員同士励まし合い信じ合い大声援を送った結果、男女ともに自己ベストを更新しポイントを上げることができました。今年は1年生の頑張りも大きかったと思います。中には、大学から水泳部に入部し、経験が少ないにも関わらず入賞することが出来た1年生もいました。

今年は練習プールが千葉から都内へと移り、都内にあまり50mプールが無いということで、日々の練習に励んできました。そんな中での総合優勝。頑張ってきたことが報われたような気がしました。限られた場所と練習をこなしこの結果を掴み取った水泳部を誇りに思い、王座奪還は本当に嬉しく思います。

来年は2連覇を目指し、厳しい練習に励んで参ります。

この頑張りには歯科医師になった際に、自信となるでしょうし、この思いを先輩とともに後輩へ伝えていきたいと思っています。

最後に大会に参加した監督、顧問の先生方、OB、OGの先輩・先生方、関係者の皆様のご支援にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後水泳部の応援を宜しくお願い致します。

### ■優勝までもう一歩

サッカー部 鈴木峻平(3年)

私たちサッカー部は、今年のデンタルで準優勝を果たしました。決勝ではあと一歩のところまで負けてしまい、とても悔しい思いをしました。

私たちは決勝に行くまでに対戦してきたチームの分まで優勝しなければなりません。また、監督、遠路応援にきてくださったOBや友人、いつもボール拾いやボトル作りなどサポートしてくれたマネージャーなどの応援があったからこそ決勝まで来られました。恩返しの意味でも、優勝は絶対でした。

決勝の相手は、明海大学でした。正直実力の差はほとんどありませんでした。競り合い、ボールを取りに行く気迫、チームの盛り上がり、ボールキープ出来るかが勝負の決め手になったと思います。試合は互角以上に戦っていました。しかし、

明海大学の勝ちたい気持ちがほんの少し私たちを上回っていたのかもしれませんが。これがデンタルの特徴であり、結束力・迫力・実力の差があっても、気力で逆転されることがあります。

デンタルを終え引退した先輩が多く、かなりの戦力ダウンになると思います。しかし、昨年も戦力ダウンすると言われてきた中で、今年は準優勝という結果を出すことができました。必死で頑張れば通用する、結果を出せると実証できました。今年の悔しい思いをバネに、今年よりも厳しいトレーニングを積み重ね、来年は優勝という結果を出したいと思います。

### ■喜びと、悔しさを来年へ

バレーボール部 太田 慧(3年)

今回の新潟県で行われました第46回全日本歯科学学生総合体育大会において、私たちバレーボール部は総合準優勝を飾ることが出来ました。男子の部は予選敗退という結果に終わりましたが、女子の部では優勝と3年生の清水美里がMVPを獲得するという輝かしい成績を収めることが出来ました。これも顧問の先生方をはじめ、OBの先生方のご指導のお陰であると感謝しています。練習場所が千葉校舎の体育館であるため、授業後の移動などを考えると決して良い練習環境とは言えませんが、その中でも試行錯誤し練習を充実させることができたことも今回の結果につながったと感じています。部活動に理解を示してくれる家族への感謝の気持ちを忘れることなく、男子は今回の悔しさを糧にし、女子は今回の結果に慢心することなくこれからも練習に励みたいと思います。

### ■歯学体を振り返って

弓道部主将 村上 侑(4年)

今年の全日本歯科学学生総合体育大会弓道部門は8月3日から7日までの期間、新潟県鳥屋野体育館にて行われました。我々弓道部は4年生まで33名の部員で丸となり勉学の合間を縫って優勝目指して稽古を続けてきました。しかし、結果は総合5位で終わりました。今年は男女ともに優勝を狙える実力があると自負していて、優勝したいという気持ちが強かったので決して満足ができる結果ではありませんでした。

ただ男女ともに団体最後の試合に関しては、い

つもの力かそれ以上の力で強豪校に勝って終わることができました。その瞬間レギュラーの選手、サポートや応援をしてくれていた部員の気持ちが一つになれば、全員で笑ってこの大会を終えることができました。

今年は水道橋に移転後初の歯学体だったということで稽古の日程や千葉校舎や借りている道場への移動など非常に苦労しました。そんな中、歯学体までの夏休み期間ほぼ全ての日にちに稽古を入れたのにもかかわらず、全部員が暑い中休まず優勝目指して稽古に励みました。そこで頑張れたのは師範の先生や部長の矢島先生、OBの先輩方のご指導や応援があったからだと感じます。

歯学体では団体戦中盤に負けの悪いループに入り、全体の空気がすごく暗くなったときがありました。そこで空気や流れを変えてくれたのは、わざわざ新潟まで応援に来てくださった、弓道部でもない4年生の友人やOB・OGの先輩方、仕事の休みを使って来てくださったOBの先生や学生課の方々です。みなさんのご声援や差し入れなどによって新潟の地でも東京歯科のアットホームさを感じて気持ちを切り替えることができました。改めてここで感謝を申し上げます。ありがとうございます。今回の歯学体の経験を糧に文武両道で精いっぱい努力してまいりますので、これからもご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

### ■デンタルを終えて

硬式庭球部 西尾絃輝(3年)

私たち硬式庭球部は、昨年のデンタルから代が変わり戦力の低下に悩まされていました。しかし、男子は4連覇しており、先輩方が成し遂げてくださった連覇を阻止しないように、日々の練習から先輩の抜けた枠を埋めよう、そしてそれ以上の力を付けようと努力しました。

新学年となり、1年生に男子2人、女子1人、戦力となる経験者が入部してくれました。1年生の経験者に負けじと他の部員の練習にも熱が入り、デンタルで優勝するぞという意気込みが生まれました。お忙しい中、先輩方が練習に来てくださったり後輩を指導してくださったり、チーム丸となって、総合優勝を目指してきました。女子は人数が少ないにも関わらず、一生懸命練習に励んでいました。デンタル直前の練習では、とても



暑い中全員で声を出すことで雰囲気も良く活気も出て、辛い練習にも耐えることができました。

とても良い雰囲気です。デンタルの地に踏み込み、日々の練習を信じて試合に挑みました。しかし、試合に出ている選手は緊張していたため実力が発揮できず、男子は準々決勝、女子は2回戦で敗退してしまい、順位決定戦となりました。男子は5連覇がかかっており、女子も優勝を狙っていたため、負けてしまい部員一同落胆していました。涙する部員もいました。しかし、みんなで今狙える最高順位を狙おうという気持ちで前に進み、順位決定戦も全力で挑みました。その結果、男子5位、女子13位、総合7位でした。先輩の築いてくれた連覇を成し遂げることも、4年生に優勝旗を捧げることもできず、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。来年こそは、この悔しさをバネに男女ともに優勝を狙い、総合優勝を目指してこれからの練習に励んでいきたいと思えます。

## ■2014年デンタルを振り返って

陸上競技部主将 二階堂純彦(3年)

本年度、我々陸上競技部は経験者3名を含む4名有望な1年生の加入により、マネージャーを含む総勢16名でデンタルに臨みました。

競技の開催を祈って迎えた当日は、曇り空ではあったものの小雨が降る程度で、前日に比べれば穏やかな天気で競技の開催が決定しました。しかし、全ての競技が予選無しの一発決勝になるという、普段とは異なった規則で競技が行われ、選手が戸惑ったことは言うまでもありません。

いざ競技が始まると雨天にもかかわらず、選手たちはこの日まで練習に励んできた成果を発揮すべく競技に集中し、女子では熊本亜津沙(3年)が走高跳で2位、走幅跳で3位、100mハードルで5位と3種目で入賞し、厳しいデンタルの出場条件をクリアした永井里歩(5年)も100mで5位に入賞しました。また、1年生ながら喜田晴美(1年)が100mで4位、走幅跳で4位と活躍し、同じく1年生の鬼谷慶子(1年)がやり投げで3位、円盤投で見事優勝し、新入部員が大躍動した結果となりました。

そして喜田晴美・熊本亜津沙・鬼谷慶子・永井里歩(4×100m)で繋いだリレーでは、昨年度の記録を1秒近く縮めたにも関わらず、九州歯

科大学に惜敗。しかし、4人のその走りとバトンワークは素晴らしいものでした。

一方男子は、主将の私を含め成績が振るわず、入賞したのは小倉基寛(1年)が5,000mで5位と二階堂純彦・大坪周平(3年)・岩崎浩之(1年)・中島智輝(2年)(4×100m)で繋いだリレーの6位のみと、女子の活躍ぶりに比べ寂しい結果に終わってしまいました。

来年度のデンタルに向けてチーム、特に男子の力の底上げを目標とし、後期より練習に励んでいますので、陸上部の躍進にご期待ください。

最後になりますが、広島での台風による洪水や土砂災害などの被害に遭われた方々に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

## ■デンタルを終えて

柔道部 近藤 周(2年)

デンタル柔道部門は岐阜県で行われ、大会の中日に長良川の花火大会が開催されており、私は花火を見に来た人々に劣等感を感じながら試合に臨みました。初のデンタル、初の73kg級だったのでとても緊張していましたが、無事優勝することができました。個人戦ではあったものの、自分の力というよりむしろ周りの方々のおかげだと感じました。というのも、今年東京歯科大学に編入してきたばかりの私を、柔道部の先輩方はとても親切にしてくださいました。OBの方々や諸先生方は試合の応援や合宿にまで参加してくださいました。そのような周りの支援や応援がなければ、優勝はできなかったと思います。本当にありがとうございました。

## ■歯学体評議員を終えて

弓道部 小池将人(4年)

第45回、第46回全日本歯科学学生総合体育大会において、大会の運営に参加させていただきました。初めに、定例会議へ出席するための連絡や手配など、多くの面で支えてくださった学生課の方々、先生方、そして一から仕事を教えてくださいました石 彩記子先輩に、深く感謝いたします。

歯学体評議員としての2年間、年に数回開かれる定例会議に出席し、予算報告や運営について発言する機会をいただくとともに、全国から集まる

他大学の評議委員との交流を深めることができました。この活動で得た貴重な経験を、これからの日々を活かしていけたらと考えております。

さて、昨年9月には稲毛から水道橋への移転に伴い、クラブ活動を取り巻く環境は大きく変化しました。これまでのグラウンドや体育館、武道場といった施設の揃う稲毛の恵まれた環境を離れ、各クラブの部員は、練習場所の確保に奔走されたことと思います。私の所属する弓道部でも、歴史ある稲毛の弓道場を離れ、都内の施設を借りて活動することが多くなりました。このように新たな工夫を求められるなかで、それぞれの部員が協力しあい、また学生課の方々、先生方のたくさんのご支援をいただき、今年度は総合第7位の成績を収めることができました。

水道橋への移転という時期に評議委員としてデ

ンタルの運営に携わらせていただき、毎日のクラブ活動が多くの方々に支えられて成り立っていることを、改めて強く実感いたしました。今も多くの部員が稲毛へ通い、それぞれの活動のホームとして練習を続けられていることも、稲毛の地を守ってくださっているたくさんの先生方、職員の方々のご尽力あってこそ、と感じています。

今後とも本学の素晴らしい伝統である文武両道を受け継ぎながら、デンタルでのさらなる飛躍を期待しております。

### ■来年は福島を舞台に

平成27年度の第47回大会は、奥羽大学歯学部事務主管により、福島県を中心に全国各地で開催される予定である。

### ■歯学体スナップ



水泳部 名門復活。総合優勝でみんな笑顔に：平成26年8月10日（日）、鹿児島市新鶴池公園水泳プール



サッカー部 優勝までもう一步。大健闘のイレブン：平成26年8月9日（土）、新潟県新発田市カルチャーセンター



バレーボール部 女子、準優勝に輝く：平成26年8月8日（金）、新潟市西総合スポーツセンター体育館



弓道部 無心で一点集中、的を射抜く：平成26年8月7日（木）、新潟市鳥屋野総合武道館弓道場



硬式テニス部 敵を圧倒、正確なバックハンド：平成26年8月7日（木）、千葉県白子町テニスコート



陸上競技部 新入部員の活躍が光る：平成26年8月8日（金）、広島県総合グランドメインスタジアム



卓球部 見事な連携で男子団体準優勝：平成26年8月8日（金）、名古屋市枇杷島スポーツセンター



ゴルフ部 北の大地で女子優勝：平成26年8月6日（水）、北海道恵庭カントリー倶楽部



フットサル部 試合前、余裕の集合写真：平成26年8月6日（水）、東京都江東区・ラモスフィールド



少林寺拳法部 息の合った演武を披露：平成26年8月3日（日）、愛知学院大学日進スポーツセンター



バドミントン部 激戦、女子ダブルス準優勝：平成26年8月9日（土）、愛知県スカイホール豊田



バスケットボール部 絶妙のバランスでゴールを守る：平成26年8月2日（土）、新潟県下田体育館



ボウリング部 一丸となって勝利を目指す：平成26年8月5日(火)、岐阜グランドボール



柔道部 華麗な背負い投げで、一本：平成26年8月3日(日)、岐阜メモリアルセンター



空手道部 部員が増え活気があふれる：平成26年8月3日(日)、横浜市・鶴見大学体育館



剣道部 日々の鍛錬を発揮：平成26年8月3日(日)、大阪府守口市市民体育館

## 学内ニュース

### ■節電講習会開催

平成26年7月3日(木)午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、各部署の節電実施責任者を集め節電講習会が開催された。会に先立ち加藤靖明大学事務部長より挨拶と主旨説明がなされ、節電への意識を高めるよう依頼があった。講師には東京電力株式会社銀座支店より榮永晋也氏



講演される榮永氏：平成26年7月3日(木)、水道橋校舎本館第1講義室

をお迎えし、オフィスビル、病院それぞれの電力消費の特徴について詳しく解説をいただき、職場でできる節電の具体的な対策、手法などのアドバイスを受けることができた。効果的な節電への取り組みが期待される。

### ■「大学・同窓会共催学年代表者会」開催

「大学・同窓会共催学年代表者会」は、平成26年7月13日(日)、水道橋校舎新館第1講義室において開催された。一昨年より大学と同窓会の共催という形で行い、各卒業年次の学年代表者約60名の参加があり、大学に対する関心の高さがうかがえた。

大学からは水野嘉夫理事長、井出吉信学長、石井拓男副学長、一戸達也副学長が出席し、同窓会からは、矢崎秀昭会長、宮地建夫副会長、浮地文夫副会長、玉井達人副会長、藤原元幸副会長、財部正治副会長をはじめ役員の先生方、若手

ネットワーク委員の先生方が出席した。

会は水野理事長、井出学長、矢崎会長のご挨拶で始まった。続いて、大学側からの報告として、井出学長から「大学の近況」というテーマで、今年度新たに就任した教授の紹介、水道橋Ⅱ期工事の状況、歯科大学を取り巻く環境、奇美医学センター（台湾）との学術協定調印式の模様などについて、スライドを使用して詳細説明があった。つぎに一戸副学長から「卒後教育」というテーマでお話があった。その後、同窓会側からの報告等が行われた。同窓会側で事前に集約していた質問に



学年代表者会で挨拶をする水野理事長：平成26年7月13日（日）、水道橋校舎新館第1講義室



「卒後教育」について話をする一戸副学長：平成26年7月13日（日）、水道橋校舎新館第1講義室



懇親会で歓談する参加者：平成26年7月13日（日）、水道橋校舎新館バルコニー

対し、井出学長が答えた。

学年代表者会終了後、水道橋校舎新館第1実習講義室において開催された懇親会では、石井副学長のご挨拶に続いて、大山萬夫同窓会顧問より乾杯のご発声を頂戴した。世代を超えた参加者各位で和やかに歓談が行われ、大学・同窓会共催学年代表者会は盛会裡に終了した。

### ■科研費使用ルール説明会開催

平成26年7月16日（水）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、「科学研究費使用ルール説明会」が開催された。これは当年度の科学研究費取得者が、研究費の使用ルールを理解し、適正に使用できるよう、毎年この時期に開催しているものである。また、取得者だけでなく、応募資格のある研究者には出席を呼びかけている。当日、市川総合病院、千葉校舎はテレビ会議システムで配信され、合計116名の研究者が出席した。

説明会は、はじめに研究部担当者より「交付決定後の手続きについて」と題し説明が行われた。続いて大学会計課の各担当者より「年間スケジュール及び、研究計画変更手続き」、「科学研究費使用ルール・直接経費の使用について」、当日会場で配付した本学作成の小冊子「平成26年度科学研究費使用ルール」に基づいて詳細な説明があった。そして、不正防止の観点から、不正使用の事例を交えながら、本学の今までの不正使用防止の取り組みと再発防止策の説明がなされ、続いて、採択された研究費に対して研究機関に交付される間接経費が昨年度どのように使われたか報告があった。

質疑応答を行い、最後に総括として、研究部長・石原和幸教授より、各研究者に研究費の計画



説明する佐藤会理萌会計課事務員：平成26年7月16日（水）、水道橋校舎本館第1講義室

的な執行とルール遵守とともに、来年度の科学研究費応募への積極的な対応をするよう要望があった。

### ■千葉病院医療連携講演会

平成26年7月17日(木)午後3時より、千葉校舎講堂において、「東京歯科大学千葉病院医療連携講演会」が開催された。本講演会は、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会、習志野市歯科医師会、印旛郡市歯科医師会、市原市歯科医師会、八千代市歯科医師会、船橋歯科医師会、江戸川区歯科医師会の協力のもと、地域の歯科診療所と千葉病院との連携強化を目的として開催している。

演題は、毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会の代表委員と千葉病院の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定し、講演を行っている。

※今年度の演題および演者

#### I. 口腔管理について

1. 「施設・在宅で開業歯科医がやるべきこと」  
有床義歯補綴学講座 非常勤講師 梅安秀樹
2. 「周術期口腔機能管理の実際  
～口腔合併症への対応を中心に～」  
オーラルメディシン・口腔外科学講座 助教 酒井克彦

#### II. 現在の歯周病治療

1. 「歯周形成外科手術の実際」  
千葉病院 助教(診療教員) 後藤弘明
2. 「糖尿病患者に対する歯周治療」  
歯周病学講座 講師 富田幸代
3. 「iPS細胞を用いた歯周組織再生治療」  
生化学講座 教授 東 俊文

当日は121名の参加者を迎え、井上 孝千葉病院長ならびに金子充人千葉市歯科医師会会長の挨拶から講演会が始まった。講演会では各演題30分程度の講演が行われ、発表後の質疑応答時には、日常診療における各種問題点の解決方法や治療に対する創意工夫、次世代の治療について意見が交換された。また、参加者からの症例相談に応じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携委員が対応した。

休憩時間中には、サンドウィッチや太巻き寿司を用意し、軽食を取りながら医療連携・症例相談

等各話題について歓談が行われた。

参加者のアンケートからは、「内容が詳しく、非常にためになった」、「来年も是非参加したい」等の声が多く寄せられ、大変有意義な講演会となった。



挨拶をする井上千葉病院長：平成26年7月17日(木)、千葉校舎講堂

### ■第5回千葉病院ロビーコンサート 午後のリサイタル開催

平成26年7月26日(土)午後2時より、千葉病院待合ロビーにおいて、第5回ロビーコンサートが開催された。

今回は「夏の日にお届けするピアノの調べ」と題し、本学の同窓である加藤京子先生および本学学生小林祥子さん(4年)をお迎えし、「アルハンブラの思い出」、「サラバンド」、「カノン」等の楽曲が演奏された。

集まった方々は爽やかなピアノの音色に耳を傾け、盛大かつ和やかにコンサートは終了した。



素敵な演奏を披露してくださった加藤先生(左)と小林さん(右)：平成26年7月26日(土)、千葉病院待合ロビー

### ■平成26年度 歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役

職者の墓参は、水野嘉夫理事長、井出吉信学長、大学事務局職員により下記の日程で執り行われた。

7月23日(水)

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」

7月29日(火)

血脇守之助 先生 松戸市「八柱霊園」

花澤 鼎 先生 松戸市「八柱霊園」

福島 秀策 先生 松戸市「八柱霊園」

鹿島 俊雄 先生 市川市「市川霊園」

7月31日(木)

高山 紀齋 先生 杉並区「文殊院」

奥村 鶴吉 先生 東村山市「小平霊園」

杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」

松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」

高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」

8月1日(金)

関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」



血脇先生の墓参を行う井出学長：平成26年7月29日(火)、松戸市「八柱霊園」



鹿島先生の墓参を行う水野理事長：平成26年7月29日(火)、市川市「市川霊園」

## ■第135回歯科医学教育セミナー開催

平成26年7月28日(月)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第135回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「歯学部臨床実習に関する国民の意識 - 臨床実習に患者の協力は得られるのか - 」と題し、株式会社 神戸製鋼所 東京本社健康管理センターの大山 篤先生より講演を伺った。

今回の講演は、一人前の歯科医師を養成するためには、診療参加型臨床実習を避けて通ることはできないが、近年、さまざまな要因から、臨床実習をとりまく環境は厳しさを増している状況にあるなかで、先生ご自身が平成23年度から25年度に「卒前臨床実習終了時における臨床能力の評価法に関する研究」において実施したWeb調査などの内容をもとに、歯学部臨床実習に関する国民の意識について報告があった。

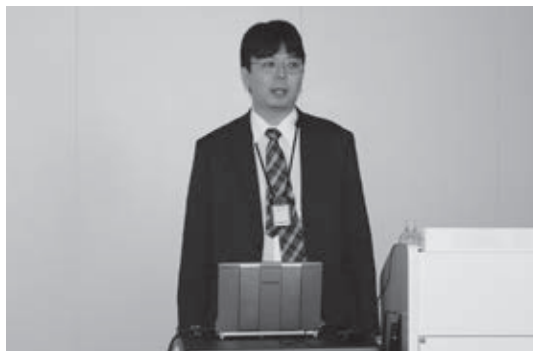
はじめに、臨床実習に協力しても良いと考えている人の割合について、国民の「協力を依頼されれば、臨床実習に協力する」割合と「大学病院の歯科に通院したことがある」割合、「大学病院への通院経験と臨床実習協力度」の関係について紹介があり、大学病院に通院した経験がある人の方が臨床実習への協力度は高いと説明があった。つぎに、臨床実習は患者さんのご厚意によって成り立っている部分が多いところから、国民が「臨床実習に協力したい理由」、「臨床実習に協力したくない理由」とその生の声についても紹介があり、調査結果からは残念ながら学生の臨床能力が信用されていない傾向があるが、こういったことを真摯に受け止め、誤解を解くために、丁寧に説明をしていく必要があると説明があった。

つづいて、知識を問うCBTと技能・態度を評価するOSCEから構成されている臨床実習開始前の共用試験は、全国で実施されていて、国民に対する説明責任を果たす役割があるとされているが、国民の「臨床実習開始前に共用試験があることを知っているか」の割合と「臨床実習を開始する前に、共用試験は必要か」の割合とその理由についての調査結果からは、共用試験の認知度は非常に低いですが、試験については、必要だと考えている割合が高かったと説明があった。

最後に、臨床実習において国民が求める学生像の調査結果について説明があり、そこから診療参

加型臨床実習を行うために、私たちが出来ることとして、共用試験など、学生の臨床能力の質を担保する取り組みを世の中に周知する等、国民に対して歯学部学生に行っている臨床教育についてもっと知らせていくべきだと説明があった。

当日はテレビ会議システムで千葉校舎にも中継された。多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される大山先生：平成26年7月28日（月）、水道橋校舎本館第2講義室

### ■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが平成26年7月12日（土）に午後2時より、8月2日（土）と8月30日（土）、9月28日（日）は午後1時より水道橋校舎において開催された。

受験生や保護者の方々に対し、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒業進路状況、平成27年度入学試験の概要、入試科目のポイント説明を行った。

入試科目のポイント説明は、推薦入学選考で出題される同等レベルの例題を提示したうえで、英語・数学・物理・化学・生物の問題解説を各回に順次行っており、昨年度からの試みであるが今年度も大変好評であった。

また、毎回異なる模擬授業が実施され、7月12日（土）にはオーラルメディシン・口腔外科学講座の片倉 朗教授による「これから求められている歯科医療は… 社会に貢献できる歯科医師になるために」、8月2日（土）には法歯学・法人類学講座の橋本正次教授による「歯はその人の履歴書である」、8月30日（土）には組織・発生学講座の山本 仁教授による「口の中には何がある？～顕微鏡でみてみよう～」、9月28日（日）には衛生学講

座の杉原直樹教授による「むし菌と甘味料－むし菌にならないための甘味料の知識－」と題した授業が行われ、こちらも入学後に学ぶ歯科医学について、受験生にもわかりやすく行われているため大変好評であった。

最後に、希望者によるさいかち坂校舎と水道橋校舎新館、水道橋病院の学内見学と教務部・学生部の教職員との個別相談を実施し、4回合わせて延べ810名もの参加があり、大盛況な入試ガイダンスとなった。

次回の入試ガイダンスは、12月13日（土）に午後2時より、水道橋校舎で開催する予定である。



本学のカリキュラムについて説明する長谷川雄教務課長：平成26年8月2日（土）、水道橋校舎本館第1講義室



冒頭の教職員紹介の風景：平成26年9月28日（日）、水道橋校舎本館第1講義室

### ■平成27年度科研費公募要領等説明会開催

平成26年9月17日（水）午後6時30分より、水道橋校舎本館第1講義室において、「平成27年度科研費公募要領等説明会」が開催された。毎年、この時期に文部科学省・日本学術振興会主催の公募要領説明会が開催されており、本学では、この説明会の報告を行うとともに、次年度の科学研究費申請に向けての注意事項、研究費の使用ルール



等を本学の研究者に周知させるため、毎年この時期に開催している。

説明会は、まず、数多く科学研究費に採択されている歯科理工学講座・口腔科学研究センターの吉成正雄教授より、「科研費獲得プロジェクトー審査委員の立場からー」と題し、研究計画調書記載のポイント等について講演が行われた。続いて、平成27年度科学研究費公募に関する注意事項等、また科研費の使用ルールについて、研究部と大学会計課の担当者より説明があった。そして、村松 敬研究部副部長より、「ブラッシュアップ担当者からのお願い」と題し、ブラッシュアップを担当した先生から共通して出てきたコメントをもとに、申請にあたってのポイント等について講演が行われた。

当日は、市川総合病院、千葉校舎へもテレビ会議システムで配信され、3校舎合計で105名の研究者が出席し熱心に説明に耳を傾けていた。



講演する吉成教授：平成26年9月17日（水）、水道橋校舎本館第1講義室

## ■第14回試験問題作成に関するワークショップ開催

平成26年9月20日（土）午前9時より、水道橋校舎本館13階において、第14回試験問題作成に関するワークショップが開催された。

本ワークショップは、教員個々の問題作成・管理能力の向上を図り、ひいては、本学における学生の公正な学習評価のより一層の充実を目指し、定期的実施している。

今回は、歯科医学における基本的な知識の理解と総合的な診断能力・問題解決力を総括的に評価するための多肢選択式試験問題作成のスキルアップを目的としたものである。

はじめに、多肢選択式問題作成法の解説と題

し、山本 仁教務副部長より基本的な作成方法と注意点等について説明を受けた。

次に、グループ演習①として、平田創一郎教務副部長より概要説明後、参加者それぞれが事前に作成した問題に対して、3グループに分かれて、ブラッシュアップを行った。さらに全体発表・討議で各グループのブラッシュアップした問題についての発表を行い、意見を出し合った。

グループ演習②では、前のセッションで発表した問題について、全体討議の中で出た議論を踏まえて問題を完成させ、次に、参加者が事前に用意した視覚素材を使用し、個人で問題を作成した。そして、個人で作成した問題についてグループでブラッシュアップを行い、最後に全体発表・討議の中で、参加者全員がグループでブラッシュアップした問題について発表をして討議を行った。

参加者とスタッフを合わせ29名が出席し、活発な討議が行われ、最後に、参加者全員に修了証書が授与され、午後6時20分に盛会の内に終了した。



グループでのブラッシュアップ風景：平成26年9月20日（土）、水道橋校舎本館13階

## ■千葉病院ロビーレクチャー開催

平成26年9月20日（土）午後2時より、千葉病院待合ロビーにおいて、千葉病院ロビーレクチャー「目指せ、PPK！おいしく食べて生涯元気！」と題し、摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科の杉山哲也講師による講演が行われた。

内容は、超高齢社会である現代の日本において、最期まで元気で、食べたいものをおいしく食べて逝く、すなわちピンピン・コロリ（PPK）が理想であり、そのためのお口の健康の保ち方、加齢による飲み込む機能の減退の予防策や自己点検法等について分かりやすい説明がなされた。

参加者は熱心に講演に耳を傾け、大変有意義なイベントとなった。



ロビーレクチャーの様子：平成26年9月20日（土）、千葉病院待合ロビー

### ■平成26年度第1回道橋病院教職員研修会開催

平成26年9月25日（木）午後6時より、水道橋校舎本館大会議室において、平成26年度第1回道橋病院教職員研修会が開催された。

今回は、まず「診療時の身だしなみについて」として、水道橋病院リスクマネジメント委員である藤波弘州助教（総合歯科）による講演があった。藤波助教は、あるべき病院の環境について解説し、医療施設に適した服装、礼儀正しさ、および施設が重要であり、スタッフのパフォーマンス次第で患者へのサービスの価値が大きく変わると述べた。患者に安心感を与えて信頼を築くことは医療従事者にとって大切なことである。患者から判断される基準は第一印象であり、視覚情報が与える影響は最も大きく、身だしなみが大半を占めている。講演では、医療安全のための身だしなみを9項目に分け、男性歯科医師、女性歯科医師、看護師、歯科衛生士、といった職種ごとの身だしなみの注意点について、写真を例示して解説した。

つづいて、水道橋病院薬局の栗田幸昌薬剤師より講演があり、今年4月から8月に薬局・医事課から処方医に対して行った疑義照会を集計し、その中で特に多かった「処方箋とカルテ記載の不一致」、「処方箋の記載不備」等について事例を挙げ、気を付けるべきポイントについて説明があった。また、処方の際の気を付けるべき事として、「アレルギー・使用禁忌の確認」、「他院で処方されている薬の確認」についても解説があった。

今回の研修会は、医療従事者としての自覚を持

ち、身だしなみをしっかりと整えることにより患者に好印象を与え、幅広い年齢層の方に違和感なく受け入れられるよう努力したいと思えるものであるとともに、身近な内容であったため参加者の関心も高く、特に新人には大変有意義な研修となった。



講演する藤波助教：平成26年9月25日（木）、水道橋校舎本館大会議室



講演する栗田薬剤師：平成26年9月25日（木）、水道橋校舎本館大会議室

### ■第136回歯科医学教育セミナー開催

平成26年9月29日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第136回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「コミュニケーション教育の目標と方法」と題し、鈴峯女子短期大学保育学科の谷口直隆先生より講演を伺った。

はじめに、コミュニケーション能力とは個人に内在している能力であり、2者間で行われる意味の生成と共有という動的な過程と捉えるのであれば、細分化して提示することは意味がなく、学習者の能力としての到達目標と評価法を作成することが難しく、教育活動の構想と学習者の学習を促進することが困難であると説明があった。

その点から、コミュニケーション教育を考えたときに、「コミュニケーション」の持つ動的な相互

作用性、文脈依存性、社会文化的特性の3つの要素と「教育」の持つ系統性・計画性をいかに統合するかが重要になってくると説明があった。

また、学習者が持っている素朴概念と構成主義的学習観から、コミュニケーションの学習では知識を量的に蓄積するのではなく、自分を取り巻く様々な世界に対して主体的に働きかけながら、整合性や論理性を構築するのであり、主体的であるからこそ実感に裏打ちされた確信を伴って、強固な性格を持っていけるのだと説明があった。

そこで、コミュニケーション教育の目標としては、メタ認知能力としてのコミュニケーション能力を養っていくことが重要になってくると紹介があり、医師養成課程におけるコミュニケーション教育の方法論として、医療面接とSP参加型のコミュニケーション教育が即興性を持つ演劇的な活動であるため、学習者が既存の知識を使って何かをやることで、教育者が予測していなかった学びを自分自身で生成する可能性を持っているので大変有効であると報告があった。

最後に、コミュニケーション教育の今後の展望

について、教育者が学習者のコミュニケーション観をしっかりと把握し、メタ化することのできる方法やコミュニケーション行為に意味を生成する活動を取り入れる等、学習者の学習過程をみとり、評価するための方法を工夫することが重要になってくると説明があった。

当日はテレビ会議システムで市川総合病院、千葉校舎にも中継された。多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される谷口先生：平成26年9月29日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

## 大学院ニュース

### ■第381回大学院セミナー開催

平成26年7月17日（木）午後6時より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、つがやす歯科医院院長であり本学有床義歯補綴学講座非常勤講師の榎安秀樹先生を講師にお迎えし、臨床検査病理学講座井上孝教授を座長として、第381回大学院セミナーが開催された。今回は、「私達はいかに学び、働くかー歯科医師の現状と未来ー」と題した講演を伺った。

榎安先生は、本学の歯科補綴学第一講座（現有有床義歯補綴学講座）にて学ばれた後、昭和54年から北海道帯広市につがやす歯科医院を開業され、今日まで35年間ご活躍されている。また先生は、早くから特別養護老人ホームなど高齢者施設と連携し入居者に対して治療や機能評価を行っており、訪問歯科診療や摂食・嚥下リハビリテーションに関しても造詣が深い。講演では、つがやす歯科医院での臨床研修プログラムをもとに、歯科界の現状と未来、地域との連携の必要性について、若手歯科医師向けにお話しいただいた。

つがやす歯科医院は、歯科臨床研修における管理型研修施設であり、本学3病院および北海道医療大学病院などの協力型研修施設でもあることから、毎年3～6名程度の研修医が勤務している。そのため、1年間の歯科臨床研修だけでなく、その後に後期臨床研修として学べる体制が構築されている。先生はその過程を通じて、研修医に通常診療に加えて訪問診療やリハビリテーションにも従事させ、治す医療（治療）ができるのはもちろん



講演される榎安先生：平成26年7月17日（木）、千葉校舎歯科臨床研修医室

のこと、守る医療(健康づくり)も行える総合歯科医院に携わる人の育成を目指している。守る医療はダイナミックではないため、若手歯科医師は成果がすぐ見て分かる治す医療にばかり興味がある傾向があるが、今回参加した大学院生はじめ研修医たちは、熱心に先生の講演に耳を傾けていた。講演後は、大学院生以外に研修医からも今後の歯科診療にどういったスキルが必要であるかなどの質問が出るなど、大変有意義なセミナーとなった。

### ■第382回大学院セミナー開催

平成26年7月24日(木)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第382回大学院セミナーが国際交流部共催セミナーという形で開催された。今回は、ネブラスカ州オハーマ市 Creighton 大学 Neil S. Norton 先生をお招きして、「Clinical anatomy of mandibular and maxillary implants using cone beam computed tomography and cadaveric anatomy in the placement of dental implants.」と題し、頭頸部臨床解剖学に関する講演を伺った。臨床的問題点を提示しながらの解剖学的構造の解説は、聴講した臨床歯科医にとって大変有意義な講演であった。

Norton 先生は、「Netter's Head and Neck Anatomy for Dentistry」と題した臨床解剖学の書籍を出版され、アメリカの歯科医に好評を得たことから、日本でもその翻訳版が出版された。その際、一部を本学解剖学講座で翻訳したことから、旧知の二階堂雅彦臨床教授のご紹介で本講演会が本学で開催されるに至った。セミナーの出席者数も多く、質疑も活発に行われた。



講演されるNorton先生：平成26年7月24日(木)、水道橋校舎本館第2講義室

### ■研究進捗状況報告会開催

平成26年9月4日(木)午後6時より、水道橋校舎新館第2実習講義室において、また、5日(金)午後6時より水道橋校舎本館大会議室において、2日間にわたり、研究進捗状況報告会が開催された。

本報告会は、大学院3年次生を対象に、広く各講座の研究内容を認知し、指導教員とともに自らの研究の進捗状況の把握に役立ててもらうことを目的に設置され、今年度はトライアルとしての開催であった。

今回は、2日間で大学院3年次生21名が、現在の研究、学位論文の進捗状況について1名5分程度で発表を行った。当日は、3年次生のみならず、多くの1、2年次生の参加があった。そして、発表した3年次生の指導を担当している教員の参加もあり、活発な質疑が行われた。

来年度からは3年次生全員に発表してもらうことになっており、多くの大学院生、指導教員の参加を募り、学位論文作成のために十分活用されることが期待される。



研究進捗状況報告会風景：平成26年9月5日(金)、水道橋校舎本館大会議室

### ■第383回大学院セミナー開催

平成26年9月25日(木)午後6時より、水道橋校舎新館第2講義室において、第383回大学院セミナーが開催された。今回は、東京医科歯科大学先端材料評価学分野教授の宇尾基弘先生をお招きして、「歯科用ジルコニアセラミックスの強度特性および水熱劣化に対する安定性」と題して講演いただいた。

講演では、ジルコニアの材料開発から歯科臨床に応用されるようになった流れ、そのジルコニアの水熱劣化に対する対策と現状をお話いただいた。歯科臨床で主に使用されているイットリア

( $Y_2O_3$ )などが添加されている正方晶ジルコニア多結晶体の優れた曲げ強さや破壊靱性値などの基礎的性質を、代表的なセラミックスであるアルミナ ( $Al_2O_3$ ) や金属であるステンレス鋼やコバルトクロム合金と比較して解説いただいた。歯科用ジルコニアセラミックスの最も大きな課題は水熱劣化によって強度が低下することにある。その劣化に対する対策が材料側からアプローチされており、その現状を紹介いただいた。また、歯科用ジルコニアセラミックスの応用を支える技術として、CAD/CAMによるデザインと切削技術、ベニア陶材との融着性、接着性レジンセメントによる歯質への接着の重要性を説かれた。特に、ホワイトメタルと称されるジルコニアであるが、セラミックスの性質を十分に理解して使用することが必要で、金属製ブリッジと同様の設計を行うと破折することや、ベニア陶材とジルコニアとの熱膨張係数の違いから生じる焼付け性の課題やチッピングの発生があることを紹介された。最後に、歯科用合金の価格上昇によって歯科用セラミックス

の需要は今後さらに拡大してくると推測されるが、それぞれの材料の特性を知ること、臨床応用がさらに拡大されることを強調された。

講演終了後には、大学院生からジルコニア製補綴物を装着する際の有益な表面処理方法などの臨床的な質疑応答がなされ、歯科用ジルコニアセラミックスを臨床で応用するための基礎知識の再構築に有意義な講演となった。



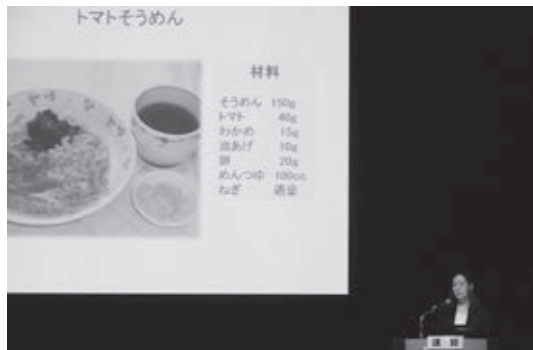
講演される宇尾先生：平成26年9月25日（木）、水道橋校舎新館第2講義室

## トピックス

### ■千葉病院 伊藤陽子栄養士 市民公開講座で講演

平成26年7月19日（土）午後1時30分より、東京ミッドタウンホールにて、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催による第3回市民公開講座「がんサバイバーシップ-つらさを和らげるケア-」が開催された。これはがんプロ事業の一環として、一般市民を対象に行われるがん啓発運動である。本事業に千葉病院 伊藤陽子栄養士による「食べること、栄養を取るためのセルフケア」と題した講演が行われた。がん治療、特に化学療

法中の患者は嘔気の発現やだるさ、痛みなどで十分に満足のいく食事が取れないのが現状である。これに対して、専門の栄養士による細かいケアを実施することにより、治療が無事完遂するまで十分な栄養摂取が可能であることを、伊藤栄養士は実際の食事のレシピや栄養補助食の紹介を通じて分かりやすく解説した。本イベントは100名以上の参加があり、多くの質疑応答がなされ、大変盛況下に会を終えた。



講演中の伊藤栄養士：平成26年7月19日（土）、東京ミッドタウンホール

### ■青山龍馬助教 第30回国際頚椎学会欧州部門で最優秀演題賞を受賞

平成26年6月25日（水）から27日（金）にスペイン・パンプローナで開催された第30回国際頚椎学会欧州部門において、市川総合病院整形外科の青山龍馬助教が最優秀演題賞を受賞した。国際頚椎学会欧州部門 (Cervical Spine Research Society-European Section) は40年以上の歴史を持つ米国国際頚椎学会 (Cervical Spine Research Society) の姉妹学会であり、頚椎外科分野では米国と並ぶ世界最高峰の学会である。昨年の山根淳一助教に

続き2年連続して当院からの演題が受賞となった。受賞演題は、「Characteristic findings of imaging in cervical canal stenosis without symptoms - Analysis of dynamic MRI and X-ray photography in 100 asymptomatic volunteers - (健常者の頸椎脊柱管狭窄の特徴 - 健常者100名の動態MRI、単純X線解析-)」である。健常者の動態MRIを解析し、頸髄症の病理理解に欠かすことのできない基本データを構築したことが評価されたものである。



授賞式にてCSRS-ES学会長のJackowski教授（左）と演題賞選考委員長のOlerud教授（右）および受賞した青山助教（中央）：平成26年6月26日（木）、スペイン・パンプローナ

### ■重野健一郎大学院生 第27回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会で優秀ポスター賞を受賞

平成26年7月19日（土）・20日（日）、九州大学医学部百年講堂で開催された第27回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会において、口腔外科学講座の重野健一郎大学院生が優秀ポスター賞を受賞した。受賞演題は「MRI T2 mappingによる顎関節部組織の定量評価：簡易T2 mappingの精度」である。対象となった研究内容は、健常者の顎関節部におけるT2 mappingの定量評価である。

近年、顎関節部においてもT2 mappingを用いた研究が報告され始めた。T2 mappingはecho time(TE)を複数点設定することで、各組織のT2緩和を捉え、T2値を算出して得るT2画像である。一般的に正確なT2 mappingを作成するにはTEをできるだけ多く設定することが望ましいとされている。しかしながらTEを多く設定することは、撮像時間の延長もしくはマルチスライス数の減少を招き、臨床では使用しにくい。そこで健

常者を対象としてecho time (TE)を複数点設定することでT2 mappingの精度を検証する研究を行った。本研究では下顎頭骨髄と外側翼突筋を対象とした。マルチエコー法のスピネエコー法を用い、撮像条件はSE-16TE、SE-8TE、SE-4TE、SE-3TEに設定した。研究結果から、それぞれの条件で算出されたT2値は近似しており、マルチスライス数の減少もしくは撮像時間の延長を軽減可能なSE-3TEから作成した簡易T2 mappingにより下顎頭骨髄および外側翼突筋のT2値を十分な精度で評価できる可能性が示唆された。したがって臨床で今後は顎関節症患者を対象としてT2 mappingを利用する価値は高いと考える。

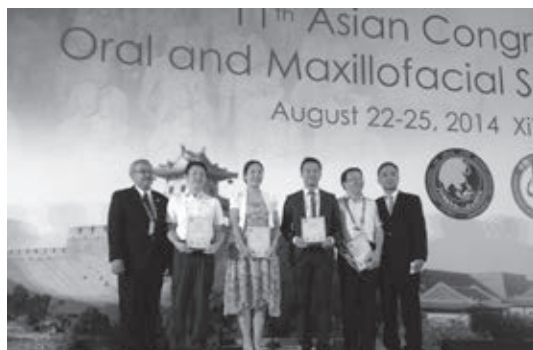
今年度より既に顎関節症患者に対してこれらの条件により撮像を行っており、今後はさらに患者を対象とした研究を進めていく予定である。



受賞ポスターの前の重野大学院生：平成26年7月20日（日）、九州大学医学部百年講堂

### ■野村武史准教授 第11回アジア顎顔面口腔外科学会でoral session awardを受賞

平成26年8月22日（金）から25日（月）まで中国・西安で開催された第11回アジア顎顔面口腔外科学会で口腔がんセンターの野村武史准教授が



受賞セレモニーにおける野村准教授（左から2番目）：平成26年8月25日（月）、中国・西安

学会発表を行い、oral session awardを受賞した。「Detection of surgical margin using fluorescence visualization as a useful tool for oral squamous cell carcinoma」と題した口演発表で、発表内容は早期口腔癌の診断確立に向けた研究内容の紹介であり、光学的診断機器「VELscope」が口腔癌切除範囲の決定に有用であることを紹介した。アジアは口腔癌の発生頻度が高い地域であり、口腔癌の予防、早期発見システムの確立に関する研究領域は大変関心が高い。今回、本講演に対して学会より名誉ある賞を預かることができた。

### ■井上 孝教授 FDI理事に選任される

平成26年9月11日(木)から14日(日)にインド・ニューデリーにおいて行われた第102回FDI大会(The FDI Annual World Dental Congress 2014)において、本学千葉病院長の井上 孝教授が理事に選任された。任期は3年間である。井上教授は過去6年間教育委員を、1年間学術委員を務めた後の理事就任である。現在FDIの役職者は、会長、副会長、財務担当、議長のほか10名の理事がいる。井上教授は本大会で、学術セッションの講師も務め、「歯周医学と歯周再生」と題した講演を行い、300席ある会場は満員となり、講演終了後も多くの質疑が行われ、熱気溢れるものであった。



FDI大会にて講演する井上教授：平成26年9月13日(土)、インド・ニューデリー

### ■木下英明講師 日本口腔インプラント学会でデンツプライ賞(優秀ポスター発表賞)を受賞

平成26年9月12日(金)から14日(日)に東京国際フォーラムにて第44回公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会が開催され、歯科理工学講座の木下英明講師が平成25年度の同学会において受賞した、「公益社団法人日本口腔インプラント学会デンツプライ賞」の表彰式が施行された。デンツプライ賞はポスター発表に際して、指定した委員の厳正なる審査の結果、優秀ポスター発表賞として採択され、演題の筆頭演者に授与されるものである。演題名は「教育用ツールとしてのインプラント手術シミュレーターの開発」であり、インプラント治療におけるドリリング時の骨の切削感を、マイクロCTデータと三次元有限要素解析を応用して自家開発の力覚体感型インプラントシミュレーターにおいて擬似体感を可能にしたもので、慶應義塾大学と共同研究を行っている。現在は歯科医師および学生を対象とした使用感の調査のデータ蓄積および解析を行っており、今後の研究の成果が期待される。



受賞した木下講師(下段左から2番目)：平成26年9月12日(金)、東京国際フォーラム

## 国際交流部レポート

### ■井出吉信学長が台湾訪問

井出吉信学長が台湾・インプラント学アジア太平洋学会および国立陽明大学からの招聘を受け、同じく招聘を受けた矢島安朝水道橋病院長、佐藤憂子国際交流部運営委員と共に訪台した。

○台湾・インプラント学アジア太平洋学会の懇親会に出席

平成26年7月5日(土)、インプラント学アジア太平洋学会の懇親会に出席し、周承澤理事長より感謝状が授与された。翌日の学会では、矢島水道

橋病院長が講演を行った。

#### ○台湾・奇美医学センターとの学術協定調印式

平成26年7月6日(日)昼、アンバサダーホテルにて奇美医学センターと本学との学術協定調印式に臨んだ。奇美医学センターより、邱仲慶病院長、王志中副院長、劉巡宇副院長、顔欽培口腔外科主任教授、林哲毅先生、劉煥雄先生・夫人、台北医学大学より、張維仁副教授、柯文昌先生が出席された。奇美医学センターとは相互に協力していくことを約束した。

#### ○東京歯科大学台湾同窓会との交流

平成26年7月6日(日)夕刻、君品飯店で開催された東京歯科大学台湾同窓会主催の懇親会に出席した。台湾歯科医師会理事長の陳義聰先生、台北医学大学の王院長、江錫仁先生、中山医科大学口腔医学院の高嘉澤院長、新北歯科医師会理事長の呉信忠先生がご出席された。また台湾同窓会より蔡先生ご夫妻、柯文昌先生、洪榮杰先生、黃明裕先生、蔡涵雅先生等20名程の先生方が出席され



インプラント学アジア太平洋学会にて、周承澤理事長(右)より感謝状を受けとる井出学長(左)：平成26年7月5日(土)



東京歯科大学台湾同窓会懇親会での記念写真：平成26年7月6日(日)

た。台湾の歯科医学界を牽引するメンバーとの会食はたいへん和やかに終始した。

#### ○台湾・国立陽明大学を訪問

平成26年7月7日(月)、国立陽明大学を訪問した。許明倫院長、季麟揚副院長、張國威歯学部部長、林妹君大学院所長、黎萬君先生、蔡涵雅研修医が出席された。双方の大学紹介、意見交換、記念品贈呈を行った。

国立陽明大学との意見交換の際には、本学と日本の歯科医療が現在直面している問題についてプレゼンテーションをし、特に超高齢化社会における摂食・嚥下分野への取り組みは先方も強い興味を持ったようであった。今後は学生のみならず、教員間での交流も積極的に行っていくという話をし、話合いを終えた。訪問の最後に国立陽明大学学長 梁廣義先生と面会した。

3日間を通し、台湾の歯科医学の先端に関わる先生方と交流を持つ事が出来、今後の本学と台湾の大学、病院との関係がより深いものになったと思う。



奇美医学センターとの調印式に臨む井出学長(左)と邱仲慶院長(右)、平成26年7月6日(日)



国立陽明大学にて記念品を交換する井出学長(左)と許明倫院長(右)：平成26年7月7日(月)



## ■台湾インプラント学会理事長らが本学を表敬訪問

平成26年8月25日（月）、台湾インプラント学会の黄尊欽理事長・中山医学大学の陳俊呈教授（歯周病学）をはじめ計14名が水道橋校舎および水道橋病院を表敬訪問し、井出吉信学長、矢島安朝水道橋病院長、齋藤 淳教授と懇談した。台湾インプラント学会は日本の最新歯科医療現場の見学と学術交流を希望され、日本の歯科界を代

表する本学への訪問となった。懇談後は、矢島水道橋病院長の案内により、佐藤憂子国際交流部運営委員とともに水道橋病院を見学した。見学後は、矢島水道橋病院長と齋藤教授が台湾インプラント学会の先生方からの質問に答え、大変熱心で活発な意見交換が行われた。最後に、井出学長より日台のより深い交流を期待するとのお話があった。



記念写真：平成26年8月25日（月）、水道橋校舎本館特別会議室

## 学生会ニュース

### ■第46回歯学体結団式

第46回歯学体結団式は、平成26年7月15日（火）午後6時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて行われた。

井出吉信学長から「出場するからには優勝を目指し、東京歯科大学の代表として頑張ってください」と挨拶があった。つづいて佐藤 亨学生部長から「昨年の成績を上回れるよう、各クラブ全力を尽くしてください」と挨拶があった。

これを受けてバスケットボール部主将西林 諒運動部長（4年）から挨拶があり、出場選手を代表して、硬式野球部主将吉田明史君（3年）から力強い選手宣誓が行われた。その後、各クラブ主将から熱い意気込みが発表され、最後に参加者全員で校歌を斉唱し閉会した。

### ○運動部長挨拶

バスケットボール部主将 西林 諒（4年）

今年もいよいよ歯学体の季節がやってきました。各クラブのみなさんは、忙しい勉学の合間を縫って、一生懸命練習してきたことと思います。

大会では、日頃の練習の成果を充分に発揮し、



井出学長から激励の挨拶：平成26年7月15日（火）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

悔いのない戦いをしてきてください。また、東京歯科大学生としての自覚を持ち、スポーツマンシップにのっとり、ベストを尽くしましょう。皆さんのご健闘を祈ります。



硬式野球部主将吉田君（3年）が力強く選手宣誓：平成26年7月15日（火）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

### ■延世大学校歯科大学との学生交流

延世大学校歯科大学との学生交流プログラムは今年27年目を迎え、平成26年8月18日（月）から22日（金）までの4泊5日の日程で、延世大学校歯科大学から Kee-Deog Kim 学生副学長、Minkyun Kim 学生課長と学生9名が来日した。

本学からは、学生会歯科学生交流局長の浅野一磨君（2年生）を代表として、小林奈菜美さん（3年生）、酒井美貴さん（3年生）、島村唯さん（3年生）、天野沙紀さん（2年生）、中島克真君（2年生）、吉野輝君（2年生）、五十嵐章智君（1年生）、

井上大介君（1年生）の学生9名が参加した。

来日初日は、水道橋校舎本館で歓迎式が行われ、井出吉信学長、Kee-Deog Kim 学生副学長からそれぞれ挨拶を頂いた。両校学生代表挨拶、記念品交換、記念写真撮影を無事に終えた。

すぐに国際交流部長阿部伸一教授（解剖学講座）の特別講演が英語で行われ、阿部教授からの突然の質問に言葉を詰まらせる学生の姿もあった。

夕刻からは、学長主催の歓迎夕食会が行われ両校教職員・学生ともに盛り上がり各テーブルから笑顔と笑い声があふれた。和やかな雰囲気の中お開きとなり、初日の行事がすべて終了した。

2日目は「学生生活とカリキュラム」「歯科学生の卒後生活」「日韓両国の歯科における問題点」について学生会議が実施され、活発なディスカッションと代表者による発表が行われた。特に歯科における問題点では、韓国でも都市部の歯科医師過剰問題が指摘されており、同じ境遇である両学生共に白熱した議論となった。

学生会議終了後、休憩をはさんで村松敬教授（歯科保存学講座）の特別講演が行われた。交流第1回目からの話をスライド等に織り交ぜた話で、両校の学生は興味深そうに話に聞き入っていた。

午後からは教職員・学生全員で水上バスやスカイツリーの展望台から絶景を眺めるなど東京の最新スポットを観光した後、月島の「もんじゃ焼き」を食べながら大いに懇親を深めた。



両校揃っての記念写真：平成26年8月18日（月）、水道橋校舎本館特別会議室

3日目は、東京ディズニーランドでグループに分かれて閉園になるまで各アトラクションを満喫した。

4日目は、グループに分かれて銀座・渋谷・原宿・六本木などで、食事・スイーツの食べ歩きや、洋服・お土産などのショッピングを楽しんだ。

5日目の最終日は、例年歓送式が行われるのだが飛行機の時間が迫っておりバスで羽田空港に向かった。

空港で佐藤 亨学生部長、Kee-Deog Kim 学生副学長、日韓学生代表から挨拶があり、今後も姉妹校としてお互いに頑張っていくと挨拶をしていた。平成26年学生交流プログラムは幕を閉じた。

今年度まで27年間続いた交流プログラムは今回で終了となり、来年度からは国際交流部が主体となって新たな学生交流が期待されている。

### ○延世大学交流会を終えて

歯科学生交流会局長 浅野一磨(2年)

今年で27回目を迎えた延世大学交流会を無事に終えることができ、大変嬉しく思います。海外の学生との交流は、私にとって今回が4度目です

たが、招待する側としての交流は初めてでした。

昨年私はこの交流会に、訪韓するメンバーの一員として参加しました。その際に我々が受けたおもてなしは、忘れられないほど温かいものでした。そして今回、その恩返しをしたいという強い思いのもとに、局長という立場で参加することができました。

交流会では、本学の教授による2つの特別講義、学生が主体となって行う学生間会議、そして都内観光を行うことで、歯科領域に関する知識だけでなく、学生間の絆も深めることができました。招待する側として準備の段階では大変なことも多くありましたが、仲間の協力を得て、最後には延世の学生に喜んでもらえるような交流会となったことが、なによりも嬉しく、今回最大の目的であった恩返しができたと感じています。

勉強は、机に向かってやるものだけではありません。歯科領域の知識は歯科医師として最低限必要なものであり、患者さんとのコミュニケーション力や外国人の患者さんを治療する際の英語力などもあるでしょう。国際交流の魅力は、我々が将来求められる力を養うことができるということ、



特別講演に耳をかたむける学生：平成26年8月18日（月）、水道橋校舎新館第2講義室



学生会議でお互いの考えを英語で伝える：平成26年8月18日（月）、水道橋校舎新館第2講義室



学長主催歓迎夕食会で懇親を深める：平成26年8月18日（月）、飯田橋ホテルメトロポリタンエドモント



水陸両用バスで出発：平成26年8月19日（火）、江東区亀戸

そして海外にも友人ができることで視野が広がることであると思っています。したがって、これからも延世大学との交流が長く続くことを願って



スカイツリーで記念撮影：平成26年8月19日（火）、墨田区押上



笑顔で記念撮影：平成26年8月20日（水）、東京ディズニーランド

ます。

最後になりますが、この交流会にご協力いただいたすべての方々に、感謝申し上げます。



初めての「もんじゃ」体験：平成26年8月19日（火）、中央区月島



出国前、再会を期してみんなと挨拶：平成26年8月22日（金）、羽田空港

## 図書館から

### ■本学教員著書について

阿部伸一・松永 智 他著 「画像診断に学ぶ難易度別口腔インプラント治療」永末書店、2014

阿部伸一 著 「摂食嚥下の機能解剖：基本のきほん」クインテッセンス出版、2014

本学教員の著書について、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

### ■JCR・インパクトファクター講習会開催

平成26年7月2日（水）午後6時より、水道橋校舎本館大会議室において、講師にトムソン・ロイターの広瀬容子氏をお迎えし、学術雑誌の評価ツールである「Journal Citation Reports」と学術雑

誌の影響力を示す指標のひとつである「インパクトファクター」をテーマとして「JCR・インパクトファクター講習会」を開催した。当日参加者は32名であった。



講習会風景：平成26年7月2日（水）、水道橋校舎本館大会議室

「どれだけ長く引用され続けるか」などこの指標からわかるジャーナルの特徴や、先ごろ変更されたインターフェースの概要についてご説明いただいた。また、講演中はもちろんのこと、それ以上に講演後に多くの質問が寄せられ、参加者の関心の高さがうかがわれた。アンケートでは参加者の大多数の方々が満足・非常に満足と回答しており、概ね好評を得た結果となった。

### ■文献複写申し込み画面変更

平成26年7月14日(月)より、文献複写申し込み画面のレイアウトが変更となった。影響のあったデータベースは、PubMed、Scopus、医中誌Web、CiNiiである。申し込みには従来通り、TDC Netアカウントおよびそのパスワードが必要である。今後は、申し込み時に確認メールが届くようになり、申し込み状況を画面上で確認でき

るようになる予定である。



変更された文献複写申し込み画面

### ■研究費図書・科研費図書の所在確認について

図書館では、大学に資産登録されている図書の所在確認を定期的に行っている。本年も7月に研究費図書・科研費図書の所在確認を実施した。資産登録されている対象図書が各講座、研究室にて適切に管理されていることが確認できた。

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■歯科衛生士専門学校学校説明会開催

平成27年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした、第3回と第4回の学校説明会が平成26年7月19日(土)と8月28日(木)に行われた。

この説明会は、歯科衛生士の職業を理解してもらい、本校の特徴を説明し、できるだけ多くの受験生を募る目的で実施しているものである。第3回には36名の志願予定者と19名の保護者が、第4回には47名の志願予定者と27名の保護者が参加した。第1回から第4回までを合わせると162名の志願予定者と92名の保護者(計254名)の参加があり、昨年に行った学校説明会と比べて志願予定者は44名、保護者は32名の計76名の参加者が増加した。

説明会では、教員と2、3年生の学生により歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活などについて、スライドを交えて紹介を行った後、実習室で最新の設備を用いた臨床基礎実習のデモンストレーションを行った。つづいて大学の各施設と千葉病院の見学を行った。また複数回、学校説明会に参加している者に対しては、学生相互実習の見学を行ったり、実際にマネキンで簡単

な実習を行うなどの別プログラムを組んだ。学校説明会終了後には、志願予定者の入学試験、学校生活、学費・奨学金、授業内容、歯科衛生士業務などについての相談会を教員、事務員および学生で行った。

学校説明会終了後のアンケートでは、前回までと同様、実際の学校施設を見学すると共に教員や学生と接することができたことで、学校の雰囲気がよくわかり良かったとの意見が多く聞かれた。

### ■歯科衛生士専門学校登院式挙行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第65期生の登院式が、平成26年9月30日(火)午前11時より千葉校舎歯科臨床研修医室において、柴原孝彦歯科衛生士部長、尾谷始子歯科衛生士長の臨席のもと、第1学年と第3学年の学生全員が列席する中で挙行された。

はじめに、久永竜一学生部長の司会のもと、高橋俊之副校長の呼名により、65期の登院生が一人ずつ紹介された。つぎに井上孝教授より、学校長の立場から登院式の意義と修学姿勢について、千葉病院長の立場から医療人としての自覚についての訓辞があった。その後、来賓として臨席

された柴原歯科衛生士部長から患者様に対する接遇について、尾谷歯科衛生士長から日々の臨床実習の心構えについての訓辞があった。最後に、登



登院生代表 五木田さんの誓詞：平成26年9月30日(火)、千葉校舎歯科臨床研修医室

院生48名を代表して五木田汐里さんが誓詞を述べ、登院生全員がこれに唱和して式を終了した。



登院式を終え決意を新たにする2年生：平成26年9月30日(火)、千葉校舎第2教室前

## 人物往来

### ■国内見学者来校

#### 水道橋校舎・水道橋病院

- 埼玉県立大学(学生27名、教員1名)  
平成26年7月8日(火)解剖実習室、標本室、水道橋病院見学
- 自衛隊中央病院 高等看護学院(学生72名、教官2名)  
平成26年7月23日(水)解剖学実習室、標本室見学
- 千葉県立千葉東高等学校(学生20名、教員3名)  
平成26年7月28日(月)水道橋校舎、解剖標本室見学 インターンシップ学習として本学訪問
- 東京歯科大学同窓会武蔵野支部(本学同窓生10名)  
平成26年8月2日(土)水道橋校舎新館、水道橋病院見学
- 医療法人鳳生会 藤リハビリテーション学院(学生64名、教員2名)  
平成26年8月18日(月)、19日(火)、21日(木)、22日(金)、25日(月)5日間  
解剖実習室見学 平成26年8月26日(火)、27日(水)2日間 解剖学教室見学
- 広沢学園 つくば歯科衛生専門学校(学生56名、教員4名)  
平成26年8月28日(木)解剖実習室、標本室、水道橋病院見学
- 学校法人阿弥陀寺教育学園 国際医療福祉専門学校(学生66名、教員3名)  
平成26年9月2日(火)解剖実習室、標本室見学

- 学校法人福岡保健学院 八千代リハビリテーション学院(午前 学生84名、午後 学生69名)  
平成26年9月3日(水)～5日(金)解剖実習室、標本室見学
  - 茨城歯科専門学校(学生47名、教員3名)  
平成26年9月25日(木)解剖実習室、標本室、水道橋病院見学
- #### 市川総合病院
- 公益財団法人 日本アイバンク協会(職員2名)  
平成26年7月2日(水)角膜センター見学
  - 館林厚生病院(歯科衛生士2名)  
平成26年8月19日(火)歯科・口腔外科見学

### ■海外出張

- 松阪賢一准教授(臨床検査病理学)  
マレーシア大学歯学部におけるExternal Examinerとしておよび共同研究打ち合わせのため、7月1日(火)から6日(日)までマレーシア・クアラルンプールへ出張。
- 井出吉信学長、矢島安朝水道橋病院長(口腔インプラント学)、佐藤憂子助教(教養科目)  
インプラント学アジア太平洋学会祝賀会出席、国立陽明大学視察・交流および東京歯科大学台湾同窓会との交流のため、7月5日(土)から7日(月)まで台湾・台北へ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学)  
北京大学口腔医学院に表敬訪問のため7月10日(木)から14日(月)まで中国・北京へ出張。

- 山本 仁教授(組織・発生学)、山下秀一郎教授(口腔健康臨床科学)  
台北医科大学で行う Elective Study 引率のため、山本 仁教授は7月20日(日)から25日(金)まで、山下秀一郎教授は7月21日(月)から25日(金)まで台湾・台北へ出張。
- 佐藤 亨教授、四ツ谷 護講師(クラウンブリッジ補綴学)  
Zebris Medical GmbHとデジタル機器の臨床研究、その臨床応用についての打ち合わせのため、7月29日(火)から8月4日(月)までドイツ・イズニーへ出張。
- 大久保真衣講師(摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科)  
クイーンマーガレット大学において超音波診断装置を用いた発音時と嚥下時の舌運動解析についての共同研究のため、平成26年8月1日(金)イギリス・エジンバラへ出発。帰国は平成27年7月31日(金)の予定。
- 山田好秋客員教授(口腔科学研究センター)  
ペラデニア大学歯学部において「嚥下の神経生理」の講演及び学長・歯学部長との懇談のため、8月7日(木)から14日(木)までスリランカ・キャンディへ出張。
- 上條英之教授(歯科社会保障学)  
第6回アジア主任歯科技官会議での講演および参加国歯科保健状況の把握等のため、8月12日(火)から17日(日)までマレーシア・クチンへ出張。
- 木下英明講師(歯科理工学)  
カリフォルニア大学ロサンゼルス校・ワイントローブ再建生命工学研究所において西村一郎教授と共同研究に関する打ち合わせのため、8月17日(日)から23日(土)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 新谷誠康教授、辻野啓一郎講師、桜井敦朗講師、本間宏美助教、田中公子助教、熊澤海道助教、宮島美樹臨床専修科生、川上響子臨床専修科生、岩田美奈子臨床専門専修科生、荒井 亮臨床専門専修科生、田代紋子大学院生、大澤枝里大学院生、永井宣子大学院生、中内彩乃大学院生(小児歯科学)  
9th Biennial Conference of the Pediatric Dentistry Association of Asia 2014において発表および、10th Biennial Conference of the Pediatric Dentistry Association of Asia 2016の合同開催アピール・見学のため、8月21日(木)から25日(月)までシンガポールへ出張。
- 野村武史准教授(口腔がんセンター)、澁井武夫講師(市病・オーラルメディスン・口腔外科学)、山本信治講師、太田亮輔レジデント、重政理香大学院生(口腔外科学)  
第11回アジア口腔顎顔面外科学会に出席、および発表のため、山本信治講師は8月21日(木)から24日(日)まで、野村武史准教授、澁井武夫講師、太田亮輔レジデント、重政理香大学院生は8月21日(木)から26日(火)まで中国・西安へ出張。
- 山本 仁教授(組織・発生学)  
9th Biennial Conference of the Pediatric Dentistry Association of Asia 2014において発表するため、8月22日(金)から25日(月)までシンガポールへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学)  
タフツ大学で行う Elective Study 引率のため、8月23日(土)から29日(金)までアメリカ・ボストンへ出張。
- 中川 健教授(市病・泌尿器科)  
The 32nd World Congress of Endourology and SWL(第32回世界エンドウロロジー学会)において講演するため、9月3日(水)から7日(日)まで台湾・台北へ出張。
- 松永 智准教授(解剖学)、高野正行准教授、菅原圭亮助教、勝見吉晴臨床専門専修科生(口腔外科学)  
ADT(Advanced digital technology)学会において発表するため、9月5日(金)から8日(月)まで中国・北京へ出張。
- 関本康人助教(市病・外科)、山添真治助教(市病・放射線科)  
15th Congress of Asian Society for Vascular Surgery(アジア血管外科学会)において発表するため、関本康人助教は9月5日(金)から7日(日)まで、山添真治助教は9月5日(金)から8日(月)まで香港へ出張。
- 吉成正雄教授(歯科理工学)  
18th International Microscopy Congressにおいて発表するため、9月6日(土)から12日(金)までチェコ・プラハへ出張。
- 山本信治講師(口腔外科学)  
第2回日米韓合同口腔外科学会において発表するため、9月8日(月)から11日(木)までアメリカ・ホノルルへ出張。
- 高木多加志准教授、村山雅人助教、別所央城助教、藤本侑子レジデント、太尾英子レジデント、大竹祐輔レジデント、船越彩子レジデント、

森川貴迪レジデント、高田 満大学院生、小郷直之大学院生(口腔外科学)、野口沙希助教、市島丈裕レジデント、星野照秀大学院生(市病・オーラルメディシン・口腔外科学)

第2回目米韓合同口腔外科学会において発表するため、9月8日(月)から13日(土)までアメリカ・ホノルルへ出張。

- 澁井武夫講師(市病・オーラルメディシン・口腔外科学)

国際口唇口蓋裂協会第4回ICDF Workshop 2014 in Mongoliaにおいて発表するため、9月8日(月)から13日(土)までモンゴル・ウランバートルへ出張。

- 片倉 朗教授(市病・オーラルメディシン・口腔外科学)

第2回目米韓合同口腔外科学会において研究発表および指導をするため、9月9日(火)から13日(土)までアメリカ・ホノルルへ出張。

- 井上 孝千葉病院長(臨床検査病理学)

第102回FDI年次世界歯科大会へFDI学術委員会委員日本代表委員として出席及び日本歯科医学学会において国際スピーカーとして発表するため、9月8日(月)から15日(月)までインド・ニューデリーへ出張。

- 馬場 亮助教(市病・放射線科)

American Society of Head & Neck Radiology 48th Annual Meetingにおいて発表するため、9月9日(火)から13日(土)までアメリカ・シアトルへ出張。

- 笠原清弘講師、菅原圭亮助教(口腔外科学)

第2回目米韓合同口腔外科学会において発表するため、9月9日(火)から15日(月)までアメリカ・ホノルルへ出張。

- ビッセン弘子教授、平沢 学助教(水病・眼科)

第32回ヨーロッパ白内障屈折矯正手術学会においてビッセン弘子教授は発表、座長のため、平沢 学助教は発表をするため、ビッセン弘子教授は9月13日(土)から17日(水)まで、平沢 学助教は9月13日(土)から18日(木)までイギリス・ロンドンへ出張。

- 坂本輝雄講師(歯科矯正学)

ISO/TC106ベルリンに出席するため、9月14日(日)から20日(土)までドイツ・ベルリンへ出張。

- 野川 茂教授(市病・神経内科)

True2 Life(新規経口抗凝固薬イグザレルトのworkshop)に参加するため、9月18日(木)から22日(月)までスイス・チューリッヒへ出張。

- 齋藤 淳教授、鈴木瑛一大大学院生(歯周病学)

第100回アメリカ歯周病学会において参加・発表するため、9月18日(木)から24日(水)までアメリカ・サンフランシスコへ出張。

- 櫻井 薫教授、山田将博講師、小泉ちあき大学院生、堀部耕広大学院生、西宮文香大学院生、根津裕一大学院生、久保慶太郎大学院生、松本尊治大学院生、(有床義歯補綴学)

38th Annual Conference of European Prosthodontic Associationにおいて発表するため、櫻井 薫教授、山田将博講師は9月23日(火)から29日(月)まで、小泉ちあき大学院生は9月24日(水)から28日(日)まで、堀部耕広大学院生、西宮文香大学院生、根津裕一大学院生、久保慶太郎大学院生、松本尊治大学院生は9月22日(月)から29日(月)までトルコ・イスタンブールへ出張。

- 木下英明講師(歯科理工学)、白井 亮大学院生(口腔インプラント学)

EAO(European Association Osseointegration) Congressにおいて発表するため、白井 亮大学院生は9月23日(火)から30日(火)まで、木下英明講師は9月24日(水)から29日(月)までイタリア・ローマへ出張。

- 小坂橋俊哉教授(市病・麻酔科)

台湾麻酔学会において招待講演するため、9月26日(金)から28日(日)まで台湾・台中へ出張。

- 西井 康講師、安村敏彦助教(歯科矯正学)

2014PCSO/WIC Sessionにおいて発表および南カリフォルニア大学歯科矯正学講座との共同研究打ち合わせのため、9月28日(日)から10月5日(日)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。

- 有泉 大助教(千病・矯正科)、吉住 淳臨床専門専修科生(歯科矯正学)

南カリフォルニア大学矯正科での研修(exchange program)のため、9月28日(日)から10月6日(月)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。

- 野島邦彦講師(歯科矯正学)

2014PCSO/WIC Sessionにおいて発表するため、9月29日(月)から10月6日(月)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。



# 大学日誌

## 平成26年7月

- 1 (火) 学生部(課)事務連絡会  
防火・防災安全自主点検日  
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 2 (水) 5年生全体集合  
薬事委員会(水病)  
糖尿病教室カンファレンス(市病)  
リスクマネージャー・ICT会議(千病)
- 3 (木) 水道橋校舎節電講習会  
感染制御委員会・ICT委員会(市病)  
治験・倫理審査委員会(市病)  
業務改善委員会(市病)  
収支改善委員会(市病)  
プログラム委員会(市病)  
カルテ指導委員会(千病)
- 4 (金) 四種抗体価測定検査
- 7 (月) 総合講義作業部会  
薬事委員会(市病)  
キャンサーボード(市病)  
臨床研修管理小部会(千病)
- 8 (火) 四種抗体価測定検査  
購買委員会(市病)
- 9 (水) リスクマネージメント部会(水病)  
褥瘡対策委員会(市病)  
救急委員会(市病)
- 10 (木) 手術室運営委員会(市病)
- 12 (土) 入試ガイダンス
- 14 (月) 臨床教育委員会  
放射線運営委員会(市病)  
関東信越厚生局適時調査(千病)
- 15 (火) 臨床教授連絡会  
講座主任教授会  
人事委員会  
第46回全日本歯科学生総合体育大会結団式  
環境清掃日  
危険物・危険薬品廃棄処理日  
歯科衛生士専門学校 臨床実習委員会  
地域連携委員会(市病)
- 16 (水) 基礎教授連絡会  
大学院運営委員会  
大学院研究科委員会  
輸血療法委員会(市病)  
衛生委員会(市病)  
CPC(市病)
- 17 (木) 第381回大学院セミナー [於：千葉校舎]  
診療録指導委員会(水病)  
医療安全管理委員会(水病)  
感染予防対策委員会(水病)  
個人情報保護委員会(水病)  
病院運営会議(水病)  
部長会(市病)
- 17 (木) 医療連携講演会(千病)
- 18 (金) 1～4年生前期授業終了  
国際交流部運営委員会  
災害対策委員会(市病)
- 19 (土) 歯科衛生士専門学校 学校説明会  
患者サロン(市病)
- 20 (日) 1～3年生Elective Study (～25日)[台湾・台北医学大学他]
- 22 (火) 1～4年生夏期休暇(～9/12)  
機器等安全自主点検日  
診療記録・情報システム管理委員会(市病)
- 23 (水) 業務連絡会(水病)  
データ管理者会議(水病)  
医局長会(水病)  
診療録管理委員会(水病)  
糖尿病教室(市病)
- 24 (木) 管理診療委員会(市病)  
第382回大学院セミナー
- 25 (金) 衛生委員会
- 28 (月) 5年生全体集合  
第135回歯科医学教育セミナー  
歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験 [～8/5]  
医療安全管理委員会(市病)  
NSTカンファレンス(市病)  
千葉病院協議会(千病)  
個人情報保護委員会(千病)  
医療安全管理委員会(千病)  
感染予防対策委員会(ICC)(千病)  
診療記録管理委員会(千病)  
衛生委員会(千病)  
業務連絡会(千病)
- 31 (木) 倫理委員会・利益相反委員会  
図書委員会  
情報システム管理委員会

## 平成26年8月

- 1 (金) 第46回全日本歯科学生総合体育大会  
開会式(競技/～12日)[事務主管：日本  
歯科大学新潟生命歯学部]  
防火・防災安全自主点検日
- 2 (土) 入試ガイダンス
- 4 (月) 市病フォーラム小委員会(市病)  
臨床研修管理小部会(千病)
- 5 (火) 医療安全講演会(市病)
- 6 (水) 医療安全講演会(市病)  
リスクマネージャー・ICT会議(千病)
- 7 (木) 栄養管理委員会(市病)  
感染制御委員会・ICT委員会(市病)  
午後のリサイクル(市病)
- 8 (金) ICLS講習会(市病)

- |        |   |        |  |
|--------|---|--------|--|
| 11 (月) | 千葉病院協議会(千病)<br>個人情報保護委員会(千病)<br>医療安全管理委員会(千病)<br>感染予防対策委員会(ICC)(千病)<br>衛生委員会(千病)<br>業務連絡会(千病) | 5 (金)  | 総合講義検討委員会<br>総合講義作業部会  |
| 12 (火) | 第46回全日本歯科学生総合体育大会<br>閉会式<br>給食委員会(水病)   | 6 (土)  | 5年生第1回総合学力試験   |
| 13 (水) | リスクマネージメント部会(水病)  | 7 (日)  | 研修歯科医選考(水病)<br>臨床研修歯科医選考[於：水道橋校舎]<br>(千病)  |
| 15 (金) | 環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日  | 8 (月)  | 教養科日協議会<br>臨床教育委員会   |
| 16 (土) | 患者サロン(市病)   | 9 (火)  | 四種抗体ワクチン接種<br>歯科衛生士専門学校 臨床実習委員会<br>歯科衛生士専門学校 1年生前期再試験<br>(～18日)  |
| 18 (月) | 延世大学校歯科大学との学生交流プロ<br>グラム(～22日)<br>医療安全管理委員会(市病)   | 10 (水) | 歯科衛生士専門学校 2年生前期再試験<br>(～12日)<br>リスクマネージメント部会(水病)<br>救急委員会(市病)<br>衛生委員会(市病)   |
| 19 (火) | 褥瘡対策委員会(水病)   | 11 (木) | 口腔がんセンター会議(市病)<br>口腔がんセンター運営会議(市病)<br>手術室運営委員会(市病)<br>高度・先進医療委員会(千病)   |
| 20 (水) | 機器等安全自主点検日<br>CPC (市病)  | 12 (金) | 四種抗体ワクチン接種   |
| 21 (木) | 病院運営会議(水病)  | 15 (月) | 歯科衛生士専門学校 創立記念日  |
| 23 (土) | 4～6年生Elective Study (～29日)<br>[米国・タフツ大学他]   | 16 (火) | 臨床教授連絡会<br>全体教授会<br>人事委員会<br>環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日<br>歯科衛生士専門学校 教員会<br>臨床検査室委員会(水病)<br>地域連携委員会(市病)                                  |
| 25 (月) | NSTカンファレンス(市病)  | 17 (水) | 1・4年生前期定期試験(～29日)<br>2・3年生前期定期試験(～25日)<br>基礎教授連絡会<br>大学院運営委員会<br>大学院研究科委員会<br>輸血療法委員会(市病)<br>褥瘡対策委員会(市病)<br>CPC (市病)                 |
| 27 (水) | 教務部事務連絡会<br>医局長会(水病)<br>糖尿病教室(市病)   | 18 (木) | 歯科衛生士専門学校 臨地実習指導者連<br>絡会<br>診療録指導委員会(水病)<br>医療安全管理委員会(水病)<br>感染予防対策委員会(水病)<br>個人情報保護委員会(水病)<br>病院運営会議(水病)<br>部長会(市病)<br>午後のリサイタル(市病) |
| 28 (木) | 5年生全体集合<br>歯科衛生士専門学校 学校説明会<br>災害対策委員会(市病)   | 19 (金) | 図書委員会  |
| 30 (土) | 入試ガイダンス   | 20 (土) | 第14回試験問題作成に関するワーク<br>ショップ<br>機器等安全自主点検日<br>第2回ロビーレクチャー (千病)  |
| 31 (日) | 石川達也元学長・名誉教授大学葬   |        |  |
- 平成26年9月**
- |       |   |  |  |
|-------|---|--|--|
| 1 (月) | 6年生第2回総合学力試験(～2日)<br>学年主任会<br>防火・防災安全自主点検日<br>薬事委員会(市病)<br>キャンサーボード(市病)<br>医療連携委員会(千病)<br>臨床研修管理小部会(千病)   |  |  |
| 2 (火) | 感染予防対策チーム委員会(水病)<br>医療廃棄物委員会(市病)  |  |  |
| 3 (水) | 1～4年生前期定期試験準備期間<br>(～12日)<br>1～4年生全体集合日<br>薬事委員会(水病)<br>治験審査・倫理審査委員会(市病)<br>臨床検査運営委員会(市病)<br>リスクマネージャー・ICT会議(千病)<br>輸血療法委員会(千病)<br>臨床検査部運営委員会(千病) |  |  |
| 4 (木) | 総合防災訓練(市病)<br>感染制御委員会・ICT委員会(市病)<br>プログラム委員会(市病)<br>カルテ指導委員会(千病)  |  |  |

22 (月) NSTカンファレンス(市病) 千葉病院協議会(千病) 個人情報保護委員会(千病) 医療安全管理委員会(千病) 感染予防対策委員会(ICC)(千病) 診療記録管理委員会(千病) 薬事委員会(千病) 衛生委員会(千病) 業務連絡会(千病) 千葉病院研修会(千病)	24 (水) 診療録管理委員会(水病) 糖尿病教室(市病) 糖尿病教室カンファレンス(市病) 広報編集委員会(市病)
24 (水) 理事会 情報システム管理委員会 歯科衛生士専門学校 3年生前期試験 (～25日) 業務連絡会(水病) データ管理者会議(水病) 医局長会(水病)	25 (木) 倫理委員会・利益相反委員会 5年生全体集合日 第383回大学院セミナー 教職員研修会(水病) 管理診療委員会(市病)
	26 (金) 衛生委員会
	28 (日) 入試ガイダンス
	29 (月) 医療安全管理委員会(市病) 第136回歯科医学教育セミナー
	30 (火) 歯科衛生士専門学校 登院式 診療記録・情報システム管理委員会 (市病) 医療サービスに関する検討会(千病)

## 規程

### ■事務組織の改組について

平成26年9月24日(水)開催の第690回理事会において、事務組織改組並びに本件に係る関連諸規程の改正が承認されましたのでご報告いたします。

#### 【事務組織改組】

趣旨：事務組織としての指揮命令系統の統一化、および現状の業務に則した事務組織の整備  
(平成26年10月1日付)

- I 事務局長の設置(事務局・事務部再編を含む)
- II 法人事務局経理部の設置
- III 水道橋病院総務課会計係を大学会計課に統合
- IV 内部監査室の法人事務局からの独立
- V 市川総合病院 病院運営企画室の設置

平成26年10月1日付事務組織の改組に係る規程等の変更(改正前名称)

- ・東京歯科大学事務処理規程
- ・東京歯科大学事務局の組織並びに事務分掌規程
- ・東京歯科大学水道橋病院事務部の組織並びに事務分掌規程
- ・東京歯科大学市川総合病院事務部の組織並びに事務分掌規程
- ・東京歯科大学千葉病院事務部の組織並びに事務分掌規程
- ・学校法人東京歯科大学法人事務局所掌事務規程
- ・学校法人東京歯科大学内部監査室設置規程(新設)
- ・学校法人東京歯科大学内部監査規程
- ・学校法人東京歯科大学定年規程
- ・学校法人東京歯科大学給与規程
- ・学校法人東京歯科大学職務手当支給内規

事務組織改組に係る関連諸規程の新旧対照表については、東京歯科大学ポータルサイトより、法人事務局(<http://www.tdc.ac.jp/jimu/hojin/>)をご参照ください。

## 平成27年度東京歯科大学大学院歯学研究科（博士課程） 学 生 募 集 要 項

○募集人員 歯学専攻34名

社会人特別選抜（若干名）

口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース

がん治療支持療法のための歯科医師養成コース を含む

○入学願書受付期間

**第Ⅰ期 平成26年10月 1日（水）～平成26年11月21日（金）まで**

**第Ⅱ期 平成27年 1月13日（火）～平成27年 2月20日（金）まで**

○試験科目

・一般

・口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース

・がん治療支持療法のための歯科医師養成コース

1) 外国語（英語：辞書（電子辞書）の持込み可）

2) 専攻主科目試験および面接

・社会人

1) 外国語（英語：辞書（電子辞書）の持込み可）

2) 口頭試問（面接）（提出書類の審査によって社会人としての業務歴または  
研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する）

3) 専攻主科目試験および面接

※社会人特別選抜については、原則として基礎系講座・研究室のみを志望できる。

○選考日・選考会場

**第Ⅰ期 平成26年12月 6日（土） 東京歯科大学 水道橋校舎**

**第Ⅱ期 平成27年 2月28日（土） 東京歯科大学 水道橋校舎**

○合格者発表

**第Ⅰ期 平成26年12月12日（金）正午 ホームページにて発表**

**第Ⅱ期 平成27年 3月 6日（金）正午 ホームページにて発表**

○学 費

入 学 金 300,000円

授 業 料 600,000円

学生会費 2,000円

施設維持費 100,000円（入学当初のみ）ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

※受験資格（一般）

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した（する）者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。

2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

※受験資格（社会人）

開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

[訂正とお詫び]

第267号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

13頁 父兄会定時総会・修学指導方針説明会開催記事記載の父兄会役員名簿

(誤)渡辺和弘 → (正)渡辺和宏

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 鎌田美樹 椎名 裕 中村弘明  
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹  
渡辺 賢 (平成26年9月現在)



編集後記

勉強ができること。それはこの歯科の世界で生き抜くために必要な能力のひとつ。でも、ほんとうに大切なことは、いま、ここにそのひとつの個性があるということの価値。自分では気づいていない、他の誰かにしかわからない、その人の価値が確かにあります。

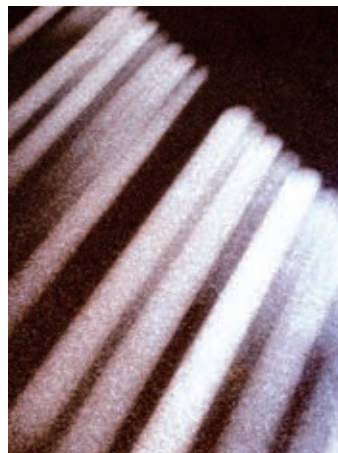
この夏、たくさんの若い才能たちが、弾けました。オールデンタルの闘いのフィールドのなかで、喜びと悔しさに仲間と涙した才能たち。Elective Study Program。初めて触れる異国の街の空気の匂いのなか、ひととの関わりのおおきに気づいていく仲間たち。四半世紀を越えて培ってきた延世大学校歯科大学の学生たちとのかたい絆。そんな仲間と、語り、笑い、共感し、涙を流しながら互いに深く触れ合い、そして、独りぼっちで自分と向き合った、幾つもの個性たち。

2014年の熱い夏がしずかに過ぎて行きました。みんなの、それぞれの思いを詰め込んで…。

そんな夏の一瞬。昼下がりの病院のロビーで、ひとつの才能がほとばしり出しました。William L. Gillock。耳慣れない名前。アメリカ合衆国の作曲家の音楽が、しなやかな指先からぼろぼろと弾き出されていくとき、確かに病院のロビーの空気が色を持ちました。個性の中に固く閉じ込められていた才能が解放されたとき、周りの人たちに静かな感動が波のように伝わっていくのがみえます。

そんな、音楽に包まれた、柔らかな陽が差し込む、素敵な土曜日の、午後。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



第5回千葉病院ロビーコンサート。小林祥子(第4学年122期生)さんのしなやかな指使い。その一音一音に、空気が変わっていきます。いつの間にか、差し込んだ陽の光が、床の上でピアノの鍵盤になっている…。